SONY

2-178-348-**03**(1)

取扱説明書

はじめにお読みください

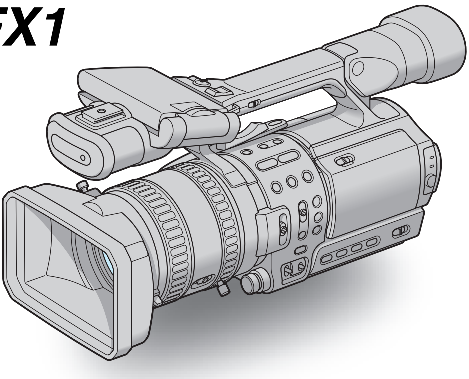
早分かりガイド

詳しくは

デジタルHDビデオカメラレコーダー

HANDYCAM

HDR-FX1



HDV

HDV 1080i

Mini DV Digital Video Cassette

InfoLITHIUM™ L SERIES

⚠警告 **電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

はじめにお読みください

お買い上げいただきありがとうございます。

別売りのアクセサリーキットについて

本機をお使いになるには、別売りのアクセサリーキットが必要です。お持ちでない場合は、お買い求めください。詳しい内容については、アクセサリーキットの取扱説明書をご覧ください。

本機はミニDVカセットのみご使用になれます

本機は、HDV規格とDV規格の両方の記録機能を搭載したビデオカメラレコーダーです。

HDV規格とは

- DV規格カセットにデジタルハイディフィニション（HD）映像の記録・再生ができます。
- HDV映像信号の圧縮方式は、BSデジタルや地上デジタルのハイビジョン放送やブルーレイディスクレコーダーで採用されているMPEG2方式です。

ちょっと一言

- 本機では「HDV規格」の中で、有効走査線数1080本を実現するHDV規格の1080i方式を採用しています。記録時の映像ビットレートは約25Mbpsです。デジタルインターフェースにi.LINKを採用し、HDVに対応するテレビやパーソナルコンピューターとのデジタル接続が可能です。
- 本書では、とくに説明する場合を除き、HDV1080方式のことをHDVと書きます。

録画・録音について

- 必ず事前にためし撮りをし、正常に録画・録音されていることを確認してください。
- 万一、ビデオカメラレコーダーや記録メディアなどの不具合により記録や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたがビデオで録画・録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

液晶パネル、ファインダーおよびレンズについて

- 液晶パネルやファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れる、または白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので安心してお使いください。
- 液晶パネルやファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。窓際や屋外に置くときはご注意ください。
- 直接太陽を撮影しないでください。故障の原因になります。夕暮れ時の太陽など光量の少ない場合は撮影できます。

他機で再生するときのご注意

HDV規格で記録したテープは、HDV規格に対応していない機器で再生することができません（青1色の画面になります）。
他機で再生する前に本機で再生して、テープの内容を確認することをおすすめします。

他機との接続についてのご注意

D端子コンポーネントビデオケーブルやi.LINKケーブルなどで本機と他の機器やパソコンなどをつなぐ場合、端子の向きを確認してつないでください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。

本書について

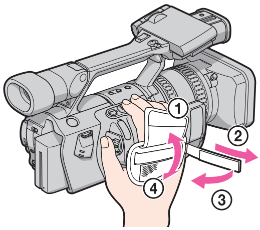
液晶パネルやファインダーの映像を説明するのにスチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。

電波障害自主規制について

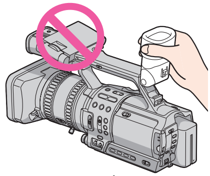
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

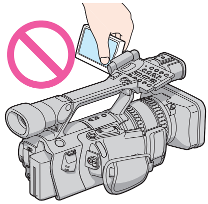
本機の扱いかたについて

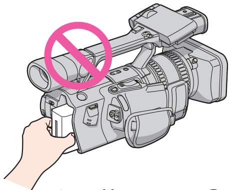
- グリップベルトをしっかりとしめて使ってください。

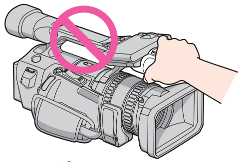


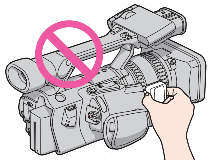
- 次の部分をつかんで持ち上げないでください。


ファインダー


液晶パネル


バッテリー


マイク


端子ホルダー

- 本機は防塵、防滴、防水仕様ではありません。「取り扱い上のご注意とお手入れ」をご覧ください（96ページ）。

目次

文中のマークについて
HDV1080i HDVだけで使える機能です。
DV DVだけで使える機能です。

見る

目次（つづき）

進んだ使いかた

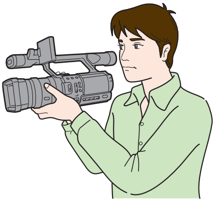
メニューで設定する

ダビングや編集をする

困ったときは

その他

各部のなまえ・索引



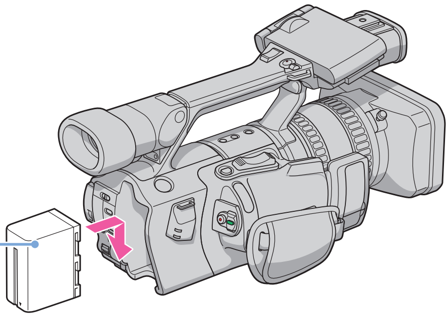
早分かりガイド

撮影する

1 充電されたバッテリーを取り付ける。

⇨充電のしかたは11ページ

バッテリーを押しながら、下にずらして取り付ける。

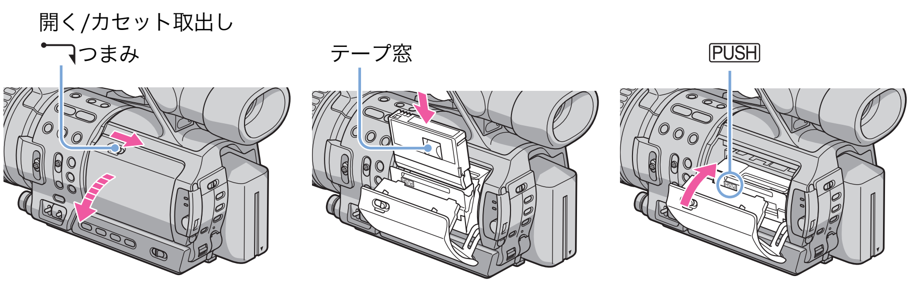


2 カセットを入れる。

❶ **開く/カセット取出し ⌐ つまみを矢印の方向へずらしたまま、カセットカバーを開ける。**
カセット入れが自動的に出てきます。

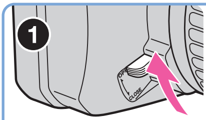
❷ **テープ窓を外側にして、カセットの背の中央を押して入れる。**

❸ **カセット入れの PUSH マークを押す。**
カセット入れが自動的に収納されたらカセットカバーを閉める。

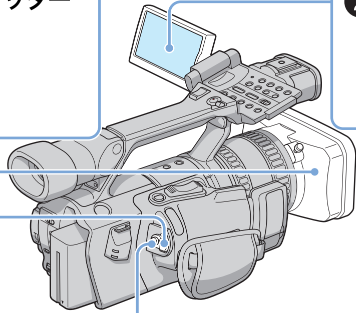


3　液晶画面を見ながら撮影する。

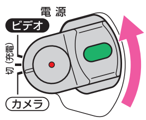
お買い上げ時には日付・時刻の設定がされていません。⇨設定のしかたは17ページ
お買い上げ時にはHDV規格で撮影するように設定されています。⇨DV規格で撮影するには58ページ



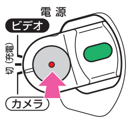
❶ フードのシャッターを開ける。



❷ 液晶パネルを開けて、好みの角度に調節する。



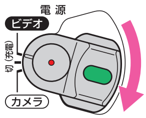
❸ 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「カメラ」にする。

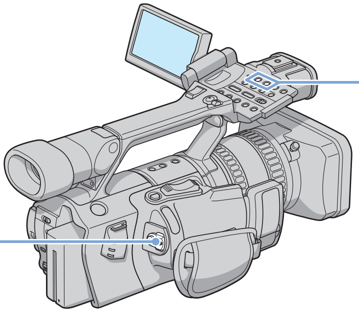


❹ 録画スタート/ストップボタンを押す。
撮影が始まります。
もう一度押すと止まってスタンバイ（撮影待機）になります。

4　液晶画面で見る。

❶ 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「ビデオ」にする。





❷ ◀◀巻戻しボタンを押して、巻き戻す。



❸ ►再生ボタンを押して、再生する。



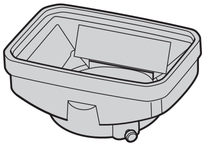
■停止ボタンを押すと再生が止まります。

電源を切るには電源スイッチを「切（充電）」にします。

準備1　付属品を確かめる

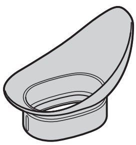
箱を開けたら、本機のほかに次の物がそろっているか確認してください。万一、不足の場合は、お買い上げ店にご相談ください。
（　）内は個数を表します。

レンズキャップ付きフード（1）
本機にあらかじめ取り付けられています。

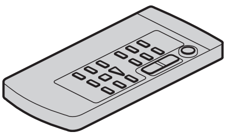


ご注意
- 別売りの光学フィルターなどを取り付けるときは、レンズキャップ付きフードを外してください。

大型アイカップ（1）
取り付けかたについては17ページをご覧ください。



ワイヤレスリモコン（1）



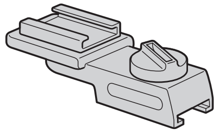
AV接続ケーブル（1）



D端子コンポーネントビデオケーブル（1）



シューアダプター（1）
取り付けかたについては104ページをご覧ください。



単3形乾電池（リモコン用）（2）
電池の入れかたについては105ページをご覧ください。

クリーニングカセット（1）

取扱説明書 <本書>　（1）

安全のために（1）

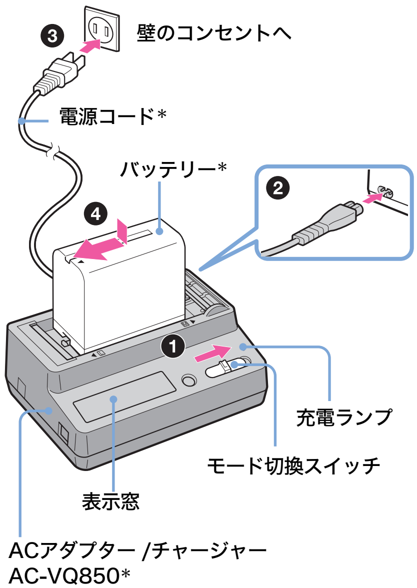
保証書（1）

準備2　バッテリーを充電する

別売りのアクセサリーキットの取扱説明書もあわせてご覧ください。
専用の“インフォリチウム”バッテリー（Lシリーズ）をACアダプター /チャージャーに取り付けて充電します。

ご注意

- “インフォリチウム”バッテリー（Lシリーズ）（93ページ）以外のバッテリーは使えません。
- ACアダプター /チャージャーのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。
- ACアダプター /チャージャーは手近なコンセントを使用してください。充電中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- ACアダプター /チャージャーを壁との隙間などの狭い場所に設置して使用しないでください。



*別売りのACCKIT-D10に付属

1 **モード切換スイッチを「充電」にする。**

2 **電源コードをACアダプター / チャージャーにつなぐ。**

3 **コンセントにつなぐ。**

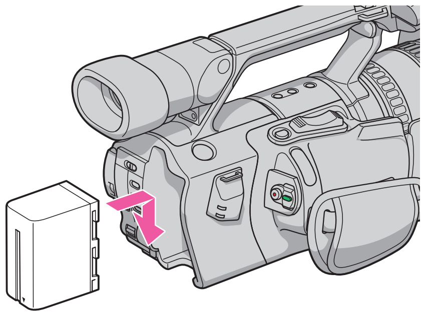
4 **バッテリーを押しながら、矢印の方向にずらして取り付ける。**
充電ランプが点灯し、充電が始まります。

◆充電が終わると

表示窓のバッテリーマークがすべて点灯します（「▰▰▰」実用充電）。
充電ランプが消え、バッテリーマーク「FULL」が表示されるまで充電を続けると、若干長く使えます（満充電）。
充電が終わったら、バッテリーをACアダプター /チャージャーから取り外してください。

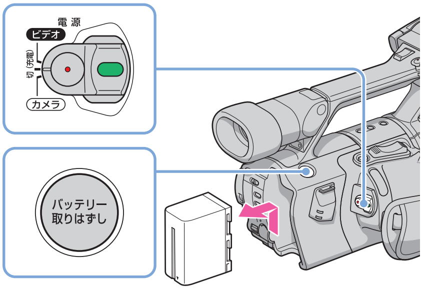
◆本機にバッテリーを取り付けるには

バッテリーを押しながら、下にずらして取り付ける。



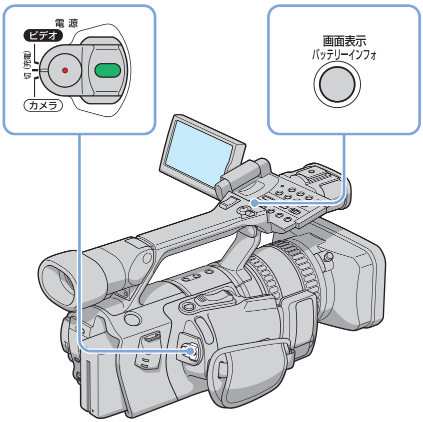
準備する

◆本機からバッテリーを取り外すには



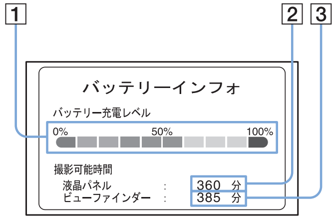
1 電源スイッチを「切（充電）」にする。
2 バッテリー取りはずしボタンを押しながら、バッテリーを上にずらす。

◆バッテリーの残量を確認するには — バッテリーインフォ



充電中や電源を切った状態でバッテリーの充電レベルとそのレベルで撮影可能な時間を確認できます。
選択している録画フォーマットでの録画可能時間が表示されます。

1 電源スイッチを「切（充電）」にする。
2 液晶パネルを開けて、好みの角度に調節する。
3 画面表示/バッテリーインフォボタンを押す。
バッテリーの情報を約7秒間表示します。
押し続けると、約20秒間表示します。



1 バッテリー充電レベル：およそのバッテリー残量

2 液晶パネル使用時のおよその撮影可能時間

3 ファインダー使用時のおよその撮影可能時間

◆充電時間

使い切ったバッテリーを25℃（10～30℃が推奨）で充電したときのおよその時間(分)です。

バッテリー型名	満充電時間（実用充電）
NP-F570	145（85）
NP-F770	230（170）
NP-F970	310（250）

ご注意
• NP-F330/F530/500/510/710はご使用いただけません。

◆撮影可能時間

満充電のバッテリーを使って25℃で撮影したときのおよその時間(分)です。

HDV規格で撮影したとき

バッテリー型名	連続撮影時	実撮影時
NP-F570	110	60
	125	65
	125	65
NP-F770	235	130
	260	130
	255	130
NP-F970	360	200
	390	205
	385	205

DV規格で撮影したとき

バッテリー型名	連続撮影時	実撮影時
NP-F570	120 130 130	65 65 65
NP-F770	255 275 275	140 140 140
NP-F970	380 410 410	210 215 215

- 上段：液晶画面バックライトスイッチが「入」のとき
- 中段：液晶画面バックライトスイッチが「切」のとき
- 下段：液晶パネルを閉じてファインダー使用時
- 「実撮影時」は、録画やスタンバイ、電源スイッチの切り換え、ズームなどを繰り返したときの時間です。実際は短くなることもあります。

ちょっと一言

- NP-F550/F730/F750/F960バッテリーも使用できます。満充電した後に、事前にためし撮りをして、お使いください。使用環境によって使用可能時間が変わります。
  使用可能時間は、画面表示/バッテリーインフォボタンを押すと確認できます。

◆再生可能時間

満充電のバッテリーを使って25℃で再生したときのおよその時間(分)です。

HDV規格の画像を再生したとき

バッテリー型名	液晶パネルで再生*	液晶パネルを閉じて再生
NP-F570	175	195
NP-F770	360	400
NP-F970	545	605

DV規格の画像を再生したとき

バッテリー型名	液晶パネルで再生*	液晶パネルを閉じて再生
NP-F570	200	235
NP-F770	415	480
NP-F970	630	725

* 液晶画面バックライトスイッチが「入」のとき

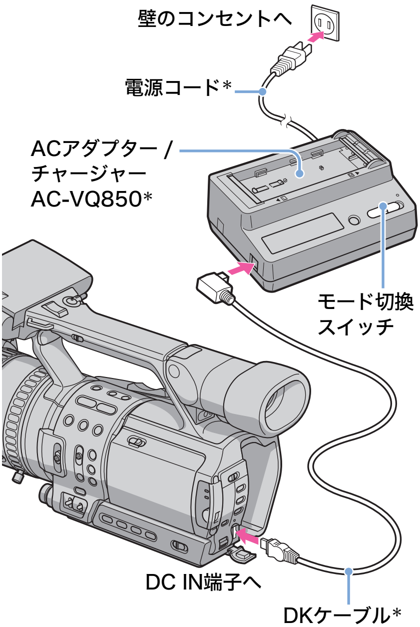
ご注意

- 低温の場所で使うと、撮影・再生時間はそれぞれ短くなります。
- バッテリーが消耗しているときはバッテリーインフォが正しく表示されないことがあります。

準備する

コンセントにつないで使うときは

バッテリーが切れることを心配しないで使えます。また、バッテリーを取り付けたまま使っても、バッテリー自身は消耗しません。



＊別売りのACCKIT-D10に付属

1 **ACアダプター /チャージャーのモード切換スイッチを「ビデオ/カメラ」側にする。**

「充電」側では電源は供給されません。

2 **DKケーブルを本機のDC IN端子につなぐ。**

3 **DKケーブルをACアダプター / チャージャーにつなぐ。**

4 **電源コードをACアダプター / チャージャーにつなぐ。**

5 **電源コードをコンセントにつなぐ。**

ご注意

- バッテリーで使用するときは、DC IN端子からDKケーブルを抜いてください。電源コードをコンセントから抜いても、DC IN端子にDKケーブルがつながっていると、バッテリーから電源が供給されません。

本体内充電するには

本機に取り付けたバッテリーを充電できます。

1 **バッテリーを本機に取り付ける(11ページ)。**

2 **「コンセントにつないで使うときは」と同じ方法で接続する（14ページ)。**

3 **ACアダプター /チャージャーのモード切換スイッチを「ビデオ/カメラ」側にする。**

4 **本機の電源スイッチを「切（充電)」にする。**

充電ランプが点灯し、充電が始まります。

充電が終わると、充電ランプが消えます(満充電)。

DKケーブルを本機のDC IN端子から抜いてください。

本体内充電時間

使い切ったバッテリーを25℃（10〜30℃が推奨）で充電したときのおよその時間(分)です。

バッテリー型名	満充電時間
NP-F570	260
NP-F770	370
NP-F970	485

ご注意

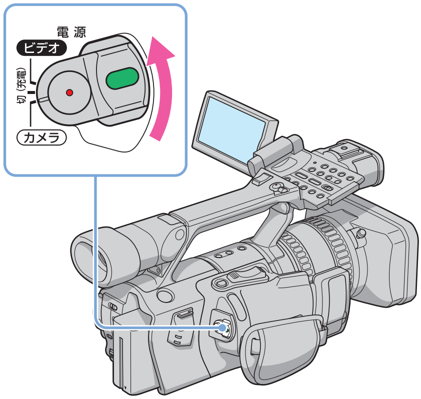
- 次のとき、充電中に充電ランプが点滅することがあります。
  ー バッテリーを正しく取り付けていないとき
  ー バッテリーが故障しているとき

準備3　電源スイッチを入れる

撮影や再生をするときは、電源スイッチをそれぞれの電源モードに切り換えます。
初めて電源を入れたときは、［日時あわせ］画面が表示されます（17ページ）。

緑のボタンを押しながら、電源スイッチを切り換える。

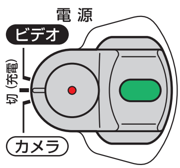
電源が入ります。



- 「カメラ」：撮影するとき
- 「ビデオ」：画像を再生・編集するとき

◆電源を切るには

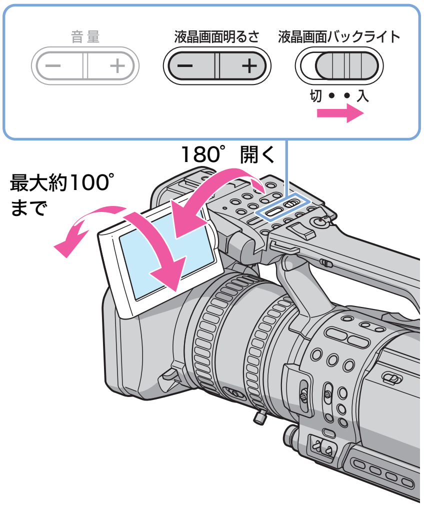
電源スイッチを「切（充電）」にする。



準備4　液晶画面やファインダーを見やすく調節する

液晶画面を見やすく調節する

液晶パネルは使用状況にあわせて見やすい角度や明るさに調節できます。被写体が人垣の向こう側で見えないときでも、パネルの角度を変えれば映像を液晶画面で確認しながら撮影できます。



180° に開ききった状態で、好みの角度に調節する。

◆液晶画面の明るさを調節するには

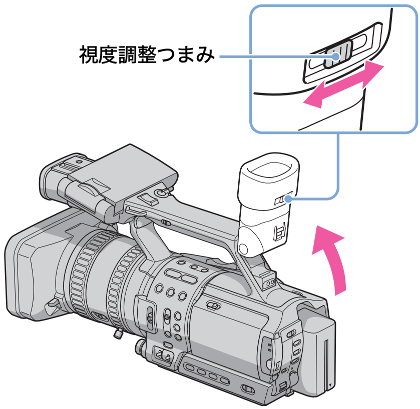
液晶画面明るさボタンの－（暗くなる）/＋（明るくなる）を押して調節する。

ちょっと一言

- 液晶画面を下に向けてから180° 回転させると、外側に向けて元の位置に収められます。
- バッテリー使用時は、（パネル/VF設定）メニューの［パネルバックライトレベル］でも選べます（56ページ）。
- 屋外など明るい場所で使うときは、液晶画面バックライトスイッチを「切」にすると（ が表示されます）、バッテリーを長持ちさせることができます。
- 液晶画面の明るさを変えても、録画される画像に影響はありません。
- （その他）メニューの［おしらせブザー］を［切］にすると、操作音を消せます（60ページ）。

ファインダーを見やすく調節する

液晶パネルを閉じると、ファインダーで画像を見ることができます。バッテリー切れが心配なときや、液晶画面が見づらいときはファインダーを使います。

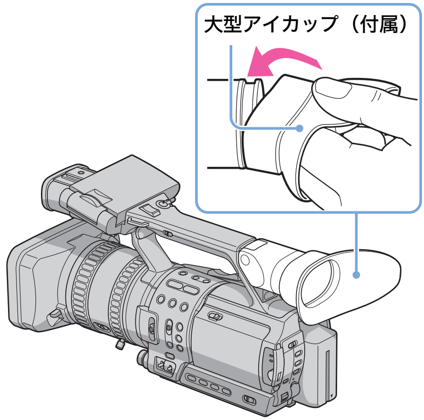


1　ファインダーを上げる。

2　画像がはっきり見えるように視度調整つまみを動かす。

◆ファインダーの画像が見えにくいときは

周囲が明るすぎるなど、ファインダーの画像が見えにくいときは、付属の大型アイカップをお使いください。
大型アイカップを少し伸ばし、本体の溝に合わせて奥までスライドさせてください。大型アイカップは左右のどちらの向きでも取り付けることができます。



ちょっと一言

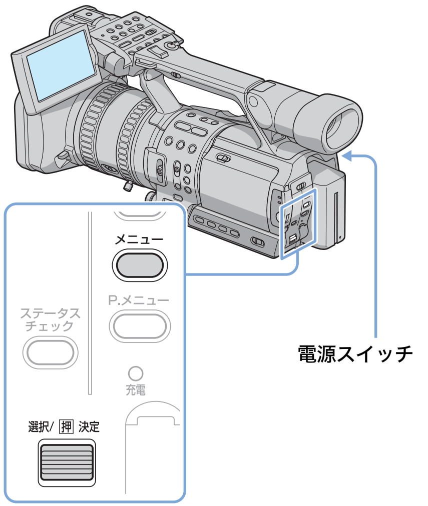
- ファインダーのバックライトの明るさは、バッテリー使用時に（パネル/VF設定）メニューの［VFバックライト］で選べます（56ページ）。

準備5　時計を合わせる

本機を初めて使うときは日付・時刻を設定してください。設定しないと、電源を入れるたびに［日時あわせ］画面が表示されます。

ご注意

- **3ヶ月**近く使わないでおくと内蔵の充電式ボタン電池が放電して、日付・時刻の設定が解除されることがあります。その場合、充電式ボタン電池を充電してから設定し直してください（97ページ）。



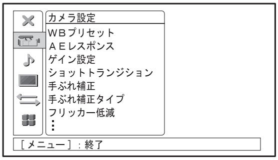
1　電源を入れる（15ページ）。

2　液晶パネルを開けて、好みの角度に調節する。

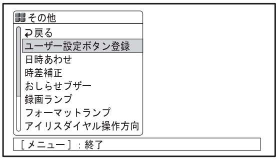
初めて時計を合わせるときは手順6に進んでください。

次のページへつづく➡

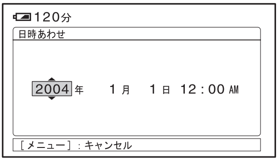
3 メニューボタンを押す。



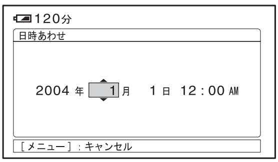
4 選択/押 決定ダイヤルを回して（その他）メニューを選び、押して決定する。



5 選択/押 決定ダイヤルを回して［日時あわせ］を選び、押して決定する。



6 選択/押 決定ダイヤルを回して［年］を合わせ、押して決定する。



2079年まで設定できます。

7 手順6と同様に、選択/押 決定ダイヤルで［月］、［日］、時、分を合わせて、押して決定する。

真夜中は12:00:00AM、
正午は12:00:00PMとなります。

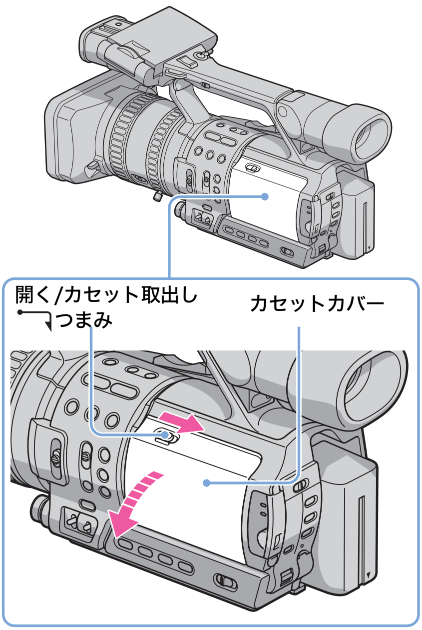
準備6　カセットを入れる

MiniDV マークの付いたミニDVカセットのみ使えます。誤消去防止方法など、カセットについてより詳しいことは、92ページをご覧ください。

ご注意

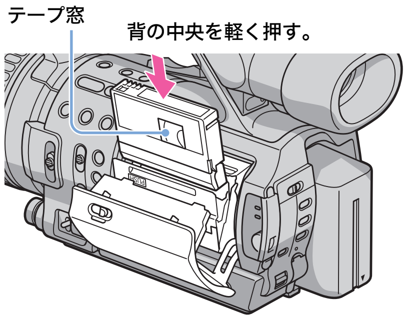
- カセット入れを無理に押し込まないでください。故障の原因になります。

1 開く/カセット取出し つまみを矢印の方向にずらしたまま、カセットカバーを開ける。



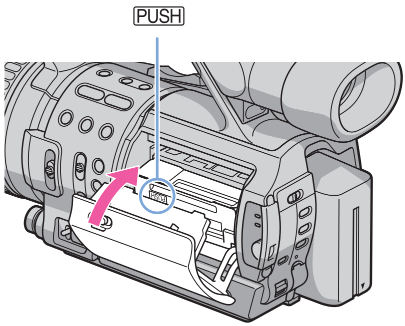
カセット入れが自動的に出て開きます。

2 テープ窓を外側にして、カセットを入れる。



3 カセット入れの PUSH マークを押す。

カセット入れが自動的に収納されます。



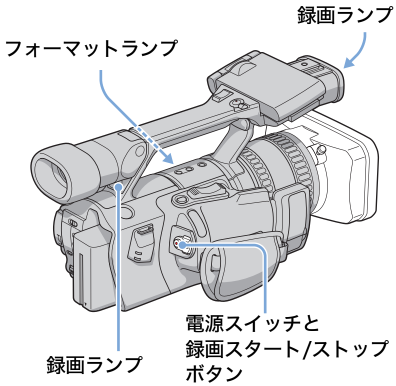
4 カセットカバーを手で閉める。

◆カセットを取り出すには

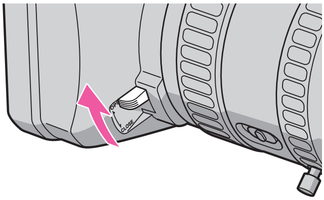
1. 開く/カセット取出し つまみを矢印の方向にずらしたまま、カセットカバーを開ける。
   カセット入れが自動的に出てきます。
2. カセットを取り出し、PUSH マークを押す。
   カセット入れが自動的に収納されます。
3. カセットカバーを手で閉める。

撮影する

HDVとDVどちらの録画フォーマットでも撮影できます。あらかじめ準備1～6（10～19ページ）を行っておいてください。
ステレオ音声で記録されます。



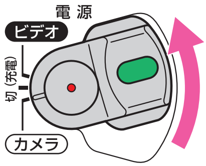
1 レンズキャップ付きフードのシャッターを開ける。



2 液晶パネルを開けて、好みの角度に調節する。

3 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「カメラ」にする。

フォーマットランプのHDV部が点灯して、スタンバイ（撮影待機）になります（お買い上げ時の設定）。
スタンバイになるまで、少し時間がかかります。



4 録画規格を選ぶ。

HDV規格で撮影するとき

（入出力/録画設定）メニューで［録画フォーマット］を［HDV1080i］（お買い上げ時の設定）にする（58ページ）。
HDV1080iが表示され、スタンバイになります。

DV規格で撮影するとき

（入出力/録画設定）メニューで［録画フォーマット］を［DV］にする（58ページ）。
DVが表示されます。
フォーマットランプのDV部が点灯して、スタンバイになります。

5 録画スタート/ストップボタンを押す。

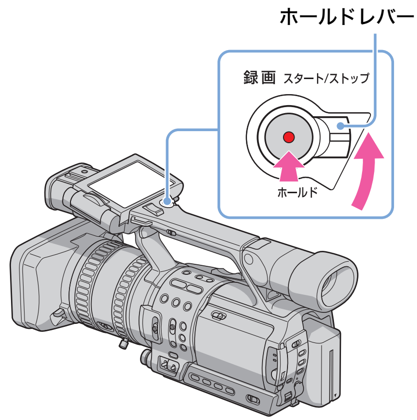
録画が始まり、画面に［●録画］が表示され、録画ランプも点灯します。もう一度押すと、録画が停止します。

◆撮影が終わったら

電源スイッチを「切（充電）」にする。

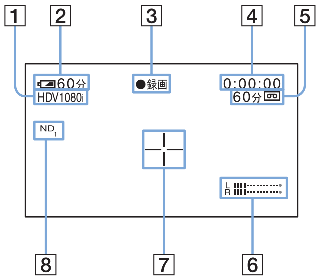
◆ローアングルで撮るときは

ハンドル部の録画スタート/ストップボタンを使うと便利です。ホールドレバーを解除してから、操作してください。
液晶画面を上に向ける、または液晶画面を下に向けてから閉じる、あるいはビューファインダーを上げて撮影することをおすすめします。



◆撮影中の画面表示

画面表示は録画されません。撮影中、日付やカメラデータ（43ページ）は表示されません。



1 録画フォーマット（HDV1080iまたはDV）
　録画フォーマットがDVのときは、録画モード（SPまたはLP）も表示されます。

2 バッテリー残量と連続撮影時間の目安
　使用状況・環境によっては正しく表示されないことがあります。液晶パネルを開閉したときは正しい残量時間を表示するまで約1分かかります。

3 撮影状態（[スタンバイ］または［●録画]）

4 タイムコードまたはテープカウンター（時：分：秒）
　本機のタイムコードはドロップフレーム方式を採用しています。

5 テープ残量（61ページ）

6 マイク音レベル（35ページ）

7 センターマーカー（53ページ）
　（カメラ設定）メニューで［センターマーカー］を［入］にすると、センターマーカーが画面の中心に表示されます。画面構成などの補助にお使いください。

8 NDフィルター
　［ND1］/［ND2］表示が点滅したら、NDフィルター設定をしてください（29ページ）。

ご注意

- バッテリーの交換は、電源スイッチを「切（充電）」にしてから行ってください。
- 撮影スタンバイが約3分以上続くと、自動的にドラムの回転が止まり、スタンバイ状態が解除されます。これはテープを保護し、バッテリーの消耗を防ぐためです。電源は切れませんので、もう一度録画スタート/ストップボタンを押せば、録画を再開できます。録画開始までに少し時間がかかりますが、故障ではありません。

ちょっと一言

- テープにカラーバーを記録できます。本機で撮影した画像をテレビやモニターで見るときに、カラーバーを見ながら色味を調節するときに便利です。カラーバーを表示するには、カラーバーボタンを押します。もう一度押すと、カラーバーは消えます。
- テープできれいにつないで撮影するには、次の点に気をつけてください。
  - ー カセットを取り出さない（電源を切ってもきれいにつなぎ撮りできます）。
  - ー 同じテープにHDV規格とDV規格の撮影を混在させない。
  - ー 同じテープにSPとLPの両モードを混ぜてつなぎ撮りしない。DV
  - ー LPモードでつなぎ撮りしない。DV
- 録画日時やカメラデータは、表示されないまま自動で記録され、再生時にデータコードボタンを押すと見ることができます（43ページ）。
- 同じテープにHDV規格とDV規格の撮影を混在させると、以下の機能が正しく働かないことがあります。
  - ー ゼロセットメモリー
  - ー 日付サーチ
  - ー インデックスサーチ
- モノラルの外部マイクを接続して撮影したときは、L（左）チャンネルにのみ音声が記録されます。音声レベルメーターはL（左）チャンネルのみ表示されます（55ページ）。

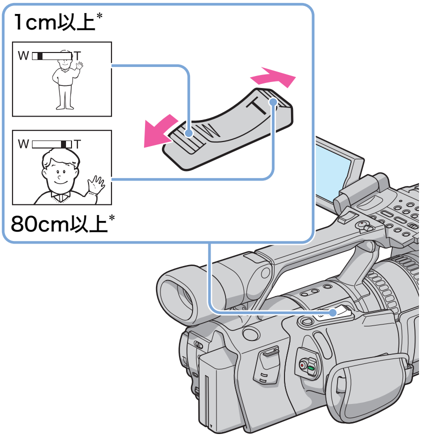
より長い時間録画する DV

◆テープでより長く録画するには

（入出力/録画設定）メニューで［録画モード］を［LP］（長時間）にする（58ページ）。
SP（標準）モードの1.5倍録画できます。本機のLPモードで録画したテープは本機で再生してください。

ズームする

ズームレバーは本体とハンドルについています。
ズームを使いすぎると見づらい画面になるため、効果的にズームしてください。



＊ ピントが合うのに必要な被写体との距離

1 **ズームスイッチを「レバー / リモート」にする。**

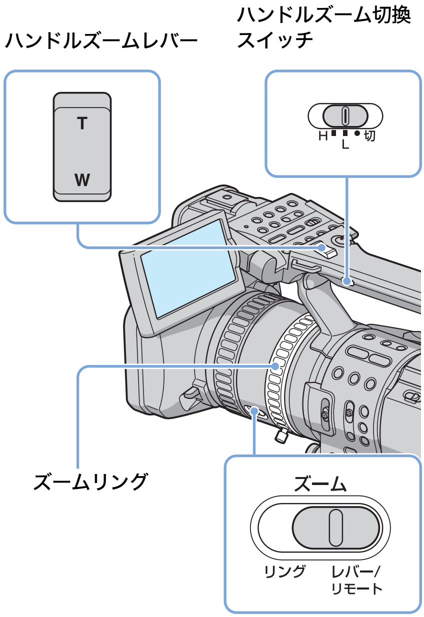
2 **ズームレバーを軽く押すとゆっくり、さらに押すと速くズームする。**

広角にするとき
ズームレバーを「W」の方向へ押す。
被写体が小さくなります。
広角＝Wide（ワイド）。

望遠にするとき
ズームレバーを「T」の方向へ押す。
被写体が大きくなります。
望遠＝Telephoto（テレフォト）。

◆ハンドルズームを使うには

ハンドルズーム切換スイッチでズームの速さを調節できます。



1 ズームスイッチを「レバー / リモート」にする。
2 ハンドルズーム切換スイッチを「L」または「H」にする。
（カメラ設定）メニューの［ハンドルズームスピード］で「L」または「H」のハンドルズームレバーの速度を設定することができます。お買い上げ時は［H］は6、［L］は3の速度に設定されています（53ページ）。

3 ハンドルズームレバーを押してズームする。

ご注意

- ハンドルズームの押し具合でズーム速度を変えることはできません。ズーム速度を変えるには、[ハンドルズームスピード]を設定してください(53ページ)。
- ハンドルズーム切換スイッチが「切」になっていると、ハンドルズームは使えません。
- ハンドルズーム切換スイッチで本体のズームレバーの速さを変えることはできません。

◆ズームリングを使うには

好みの速さでズームすることができます。微調整も可能です。

1 ズームスイッチを「リング」にする。

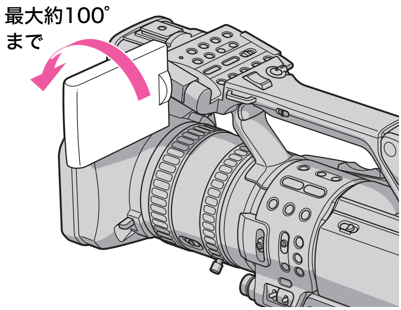
2 ズームリングを回してズームする。

ご注意

- ズームリングは適度な速さで回してください。速すぎると、ズームがリングの回転に追いつかないことがあります。
- リモコンでズームするときは、ズームスイッチを「レバー / リモート」にしてください。
- ズームスイッチを「レバー / リモート」から「リング」に切り換えると、ズームの位置や画角が変わります。
- ズームリングを速く回しすぎると、ズームモーターが高速で動作するため、モーター音が大きくなります。ズーム動作音が気になるときは、ズームレバーまたはリモコンでズームしてください。

対面撮影する

液晶パネルを相手に向けながら撮影すれば、撮影する側、撮影される側の両方で撮影中の画面を確認できます。小さい子供を撮影するときにカメラのほうへ注目させたり、撮影者が自分自身を撮影したりするときなどにも使えます。



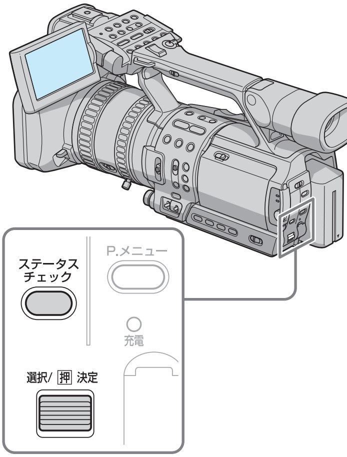
液晶パネルを180°まで開いてから、矢印の方向にカチッと音がするまで回転して、被写体に向ける。

液晶画面には左右反転で映りますが、実際には左右正しく録画されます。

撮影情報を表示する—ステータスチェック

撮影またはスタンバイ中に、以下の項目がどのような設定値になっているかを確認できます。

- マイク音レベルなどの音声設定（35ページ）
- 出力設定（[コンポーネント出力]［i.LINK DV変換］［TVタイプ］）（58ページ）
- ユーザー設定ボタンに割り当てた機能（66ページ）
- ピクチャープロファイル（33ページ）



1 **ステータスチェックボタンを押す。**

2 **選択/押 決定ダイヤルを回して、項目を表示する。**

回すたびに、オーディオ→出力→ユーザー設定→ピクチャープロファイルに切り換わります。

◆撮影情報表示を消すには

ステータスチェックボタンを押す。

ご注意

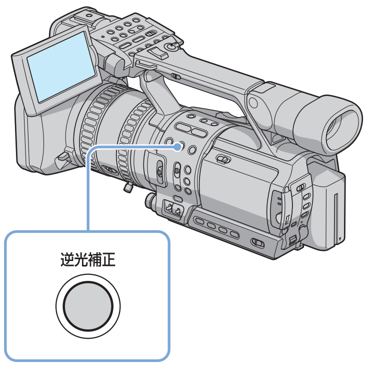
- ピクチャープロファイルの設定が［切］のときは、ピクチャープロファイルは表示されません。

明るさを調節する

お買い上げ時は自動で画像の明るさが調節される設定になっています。
明るさを自動の状態より明るくまたは暗くする場合は、手動調節で撮影する（27ページ）、またはピクチャープロファイル（33ページ）であらかじめ好みの設定にして撮影してください。

逆光補正する

被写体の後ろに太陽などの光源があり（逆光）、被写体が陰になるときに使います。



撮影またはスタンバイ中に、逆光補正ボタンを押す。

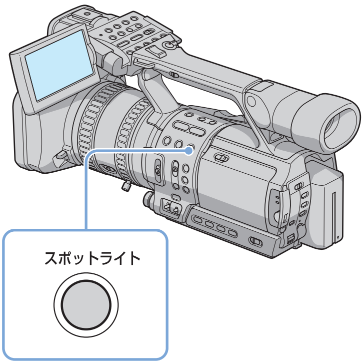
が表示されます。
逆光補正を解除するには、もう一度逆光補正ボタンを押します。

ご注意

- 逆光補正中にスポットライトボタンを押すと、逆光補正は解除されます。
- アイリス、ゲイン、シャッタースピードのうち2つ以上を手動で設定していると、逆光補正は使えません。

強い光が当たっている被写体を撮る—スポットライト

舞台など、強い光が当たっている被写体を撮影するときに、人物の顔などが白く飛んでしまうのを防ぐときに使います。



撮影またはスタンバイ中に、スポットライトボタンを押す。

（スポットライト表示）が表示されます。

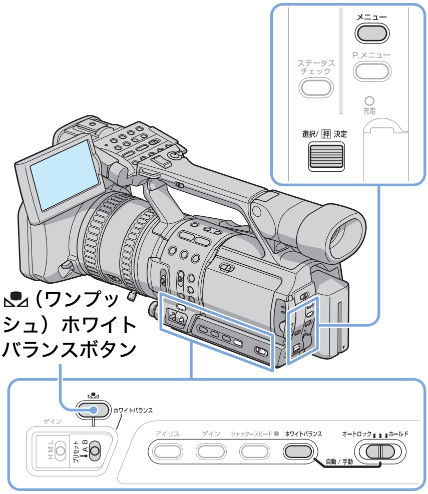
スポットライトを解除するには、もう一度スポットライトボタンを押します。

ご注意

- スポットライト中に逆光補正ボタンを押すと、スポットライトは解除されます。
- アイリス、ゲイン、シャッタースピードのうち2つ以上を手動で設定していると、スポットライトは使えません。

自然な色合いに調節する—ホワイトバランス

撮影する場面の光に合わせてホワイトバランスを固定するときに使います。ホワイトバランスの調整値をメモリー AとBに個別に記憶させます。撮影時はホワイトバランス切換スイッチで記憶させた調整値を選びます。調整値は、再調整しない限り電源を切っても約3ヶ月間保持されます。



1 **撮影またはスタンバイ中に、オートロックスイッチを中央（オートロック解除位置）にする。**

2 **ホワイトバランスボタンを押す。**

3 **ホワイトバランス切換スイッチを「A」または「B」にする。**

4 **被写体と同じ照明条件のところで、白い紙などを画面いっぱいに映す。**

次のページへつづく➡

5　（ワンプッシュ）ホワイトバランスボタンを押す。

Aまたは Bが速い点滅に変わります。
ホワイトバランスが調節されると、点滅から点灯に変わり、選んだAまたはBのメモリーに調整値が記憶されます。

◆記憶させた調整値を呼び出すには

1　撮影またはスタンバイ中にオートロックスイッチを中央（オートロック解除位置）にする。
2　ホワイトバランス切換スイッチを「A」または「B」にする。
3　ホワイトバランスボタンを押す。
記憶させたホワイトバランスに設定されます。

ご注意

- Aまたは Bが点滅しているときは、本機に強い衝撃を与えないでください。
- Aまたは Bが点滅から点灯に変わらないときは、ホワイトバランスを設定できません。プリセットホワイトバランスか、自動調節で撮影してください。

◆プリセットホワイトバランスを使うには

2種類のホワイトバランス値が設定されています。撮影する場面の光に合わせて選ぶことができます。

1　撮影またはスタンバイ中にオートロックスイッチを中央（オートロック解除位置）にする。
2　メニューボタンを押す。
3　選択/押 決定ダイヤルを回して （カメラ設定）メニューを選び、押して決定する。
4　選択/押 決定ダイヤルを回して［WBプリセット］を選び、押して決定する。
5　選択/押 決定ダイヤルを回して希望の設定を選び、押して決定する。

項目	撮影場面
[屋外] ( )	• 夜景やネオン、花火など • 日の出、日没など • 昼光色蛍光灯の下
[屋内] ( )	• パーティー会場やスタジオなど照明条件が変化する場所 • スタジオなどビデオライトの下、ナトリウムランプや水銀灯、電球色蛍光灯の下

6　メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。
7　ホワイトバランス切換スイッチを「プリセット」にする。
8　ホワイトバランスボタンを押す。
選んだホワイトバランスに設定されます。

◆自動調節に戻すには

ホワイトバランスボタンを押す。または、オートロックスイッチを「オートロック」にする。

ご注意

- オートロックスイッチを「オートロック」にすると、他の手動調節（アイリス、ゲイン、シャッタースピード）も一時的に解除されます。

手動調節で撮る

撮影する場面の明るさや、得たい効果に合わせて、アイリスやゲインなどを手動で調節できます。アイリス、ゲイン、シャッタースピード、ホワイトバランスは、オートロックスイッチを中央（オートロック解除位置）にして調節します。
オートロックスイッチの位置を変えて、各機能の設定を保持/解除します。

位置	意味
オートロック	自動で調節する。
中央（オートロック解除位置）	手動で調節する。
ホールド	手動調節したあとに「ホールド」にすると、各機能の設定を保持する。

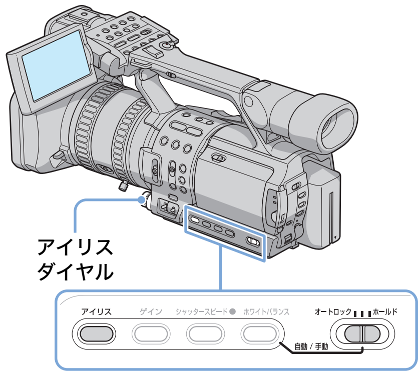
ホワイトバランスについては、25ページをご覧ください。

ご注意
- アイリス、ゲイン、シャッタースピードは、手動調節しないかぎり、周囲の明るさに合わせて自動的に調節されます。好みの明るさに設定したいときは、アイリス、ゲイン、シャッタースピードをすべて手動で調節してください。
- アイリス、シャッタースピード、ゲインのいずれか1つだけを手動で調節すると、それぞれアイリス優先、シャッタースピード優先、ゲイン優先撮影ができます。

ちょっと一言
- カメラの明るさを調節したいときは、アイリス、ゲイン、シャッタースピードをすべて手動にした状態で、アイリスダイヤルを回してください。

アイリスを調節する

レンズに入る光量を手動で調節できます。
絞りを開く（アイリス値を小さくする）と光量が増えます。ピントの合う範囲が狭くなり、被写体のみがくっきり映ります。
絞りを閉じる（アイリス値を大きくする）と、光量が減り、ピントの合う範囲が広がります。



1 撮影またはスタンバイ中に、オートロックスイッチを中央（オートロック解除位置）にする。

2 アイリスボタンを押す。
アイリス値（F値）が表示されます。

3 アイリスダイヤルを回して、好みのアイリス値に合わせる。
アイリス値（F値）はF1.6～F11、クローズの間で変わり、調整値が表示されます。

◆自動調節に戻すには

アイリスボタンを押す。または、オートロックスイッチを「オートロック」にする。

次のページへつづく➡

ご注意

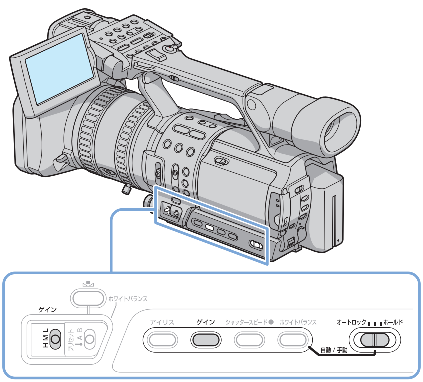
- オートロックスイッチを「オートロック」にすると、他の手動調節（ゲイン、シャッタースピード、ホワイトバランス）も一時的に解除されます。
- ズームがW側（広角）からT側（望遠）になるにつれて、アイリス値はF1.6からF2.8に変わります。

ちょっと一言

- アイリスダイヤルの回転方向を（その他）メニューの［アイリスダイヤル操作方向］で変えることができます（61ページ）。
- 絞りの重要な効果であるピントの合う範囲のことを「被写界深度」といいます。被写界深度は絞りを開けると浅く（ピントの合う範囲が狭く）なり、絞りを閉じると深く（ピントの合う範囲が広く）なります。撮影の意図によって絞りの効果を上手に使い分けてください。

ゲインを調節する

黒っぽい被写体や暗い被写体を撮影するときに、AGC（オートゲインコントロール）によるゲインアップを行いたくないときなどに使います。



1 撮影またはスタンバイ中に、オートロックスイッチを中央（オートロック解除位置）にする。

2 ゲインボタンを押す。

ゲイン値が表示されます。

3 ゲインスイッチを好みの位置に合わせる。

H、M、Lの3段階に切り換えられます。
H、M、Lに対応する値は、（カメラ設定）メニューの［ゲイン設定］で設定できます（51ページ）。
お買い上げ時は、18dB（H）、9dB（M）、0dB（L）に設定されています。
数値が大きくなるほど、ゲインが上がります。

◆自動調節に戻すには

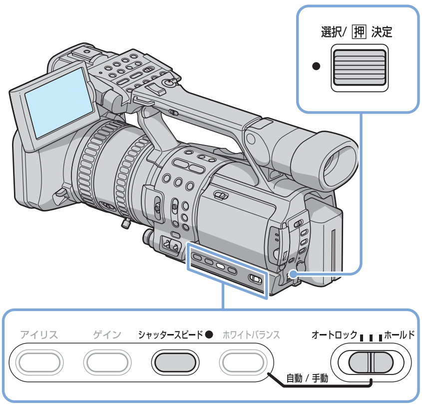
ゲインボタンを押す。または、オートロックスイッチを「オートロック」にする。

ご注意

- オートロックスイッチを「オートロック」にすると、他の手動調節（アイリス、シャッタースピード、ホワイトバランス）も一時的に解除されます。

シャッタースピードを調節する

シャッタースピードを自由に調節し、固定することができます。被写体の動きを止めたり、逆に流動感を強調して撮影するときに便利です。



1 **撮影またはスタンバイ中に、オートロックスイッチを中央（オートロック解除位置）にする。**

2 **シャッタースピードボタンを押す。**

3 **選択/押 決定ダイヤルを回して、シャッタースピードを調節する。**

1/4秒～1/10000秒の範囲で選べます。シャッタースピードが画面に表示されます。例えば、1/100秒にすると［100］と表示されます。画面上の数値が大きくなるほどシャッタースピードが速くなり、画面上の数値が小さくなるほどシャッタースピードが遅くなります。

◆自動調節に戻すには

シャッタースピードボタンを押す。または、オートロックスイッチを「オートロック」にする。

ご注意

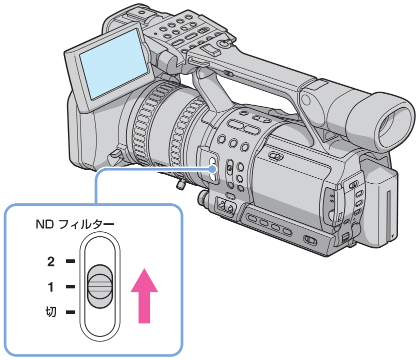
- オートロックスイッチを「オートロック」にすると、他の手動調節（アイリス、ゲイン、ホワイトバランス）も一時的に解除されます。

ちょっと一言

- シャッタースピードが遅いと、自動でピントが合いにくくなります。三脚などに固定して、手動でピントを合わせることをおすすめします。
- 蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの放電管による照明下で撮影すると、画面が明滅したり（フリッカー現象）、色が変化したりすることがあります。このようなときは、シャッタースピードを関東地方など50Hzの地域では1/100、関西地方など60Hzの地域では1/60に設定することをおすすめします。

光の量を調節する―NDフィルター

撮影状況が明るすぎるときは、NDフィルターを使うと被写体を鮮明に撮影できます。NDフィルター 1は光量を約1/6に、NDフィルター 2は約1/32に削減するように設定されています。



スタンバイ中に、［ND 1］または［ND 2］が点滅したら、NDフィルタースイッチを切り換える。

[ND1]が点滅したとき
NDフィルタースイッチを「1」にして［ND1］を点灯させる。

[ND 2]が点滅したとき
NDフィルタースイッチを「2」にして［ND2］を点灯させる。

[ND OFF]が点滅したとき
NDフィルタースイッチを「切」にして表示を消す。

ご注意

- 撮影中にNDフィルターを切り換えると、画像が乱れたり音声にノイズが入ることがあります。
- アイリスを手動で調節しているときは、NDフィルターの設定が必要な場合でも、NDフィルター表示が出ません。

撮る

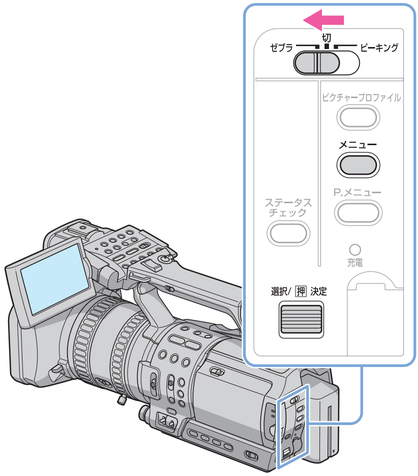
次のページへつづく➡

ちょっと一言

- 明るい被写体を撮影するとき、アイリスを極端に絞ると回折現象が生じピントが甘くなることがあります。（ビデオカメラでは一般的に起こる現象です。）NDフィルターを使うと、この現象を抑え、より良好な撮影結果を得ることができます。

ゼブラパターンを使って明るさを調節する

画面の中で輝度が一定レベルを超える部分は白とびが生じることがあります。この部分にしま模様（ゼブラパターン）を表示する機能です。明るさを調節するときの目安として使用します。
メニューでゼブラパターンが現れる輝度レベルを選びます。



1 **撮影またはスタンバイ中に、メニューボタンを押す。**

2 **選択/押 決定ダイヤルを回して（カメラ設定）メニューを選び、押して決定する。**

3 **選択/押 決定ダイヤルを回して［ゼブラレベル］を選び、押して決定する。**

4 **選択/押 決定ダイヤルを回して輝度レベルを選び、押して決定する。**

［70］～［100]、および［100+］から選びます。
例えば［70］を選ぶと、輝度レベルが70±5%の輝度信号の部分にゼブラパターンが現れます。
［100+］の場合は、100%以上のすべての部分にゼブラパターンが現れます。
お買い上げ時は［100+］に設定されています。

5 **メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。**

6 **ゼブラ/ピーキングスイッチを「ゼブラ」にする。**

ゼブラパターンが表示されます。

◆ゼブラパターンを消すには

ゼブラ/ピーキングスイッチを「切」にする。

ご注意

- ゼブラパターンはテープには記録されません。
- ピーキング機能を使用中（32ページ）はゼブラパターンを使えません。

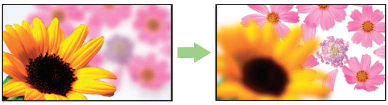
ピントを合わせる

お買い上げ時は自動でピントが合う設定になっています。

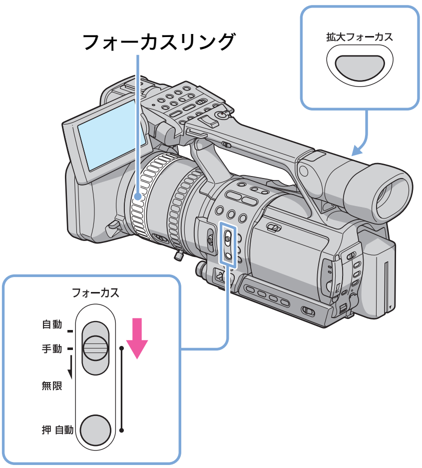
手動でピントを合わせる

撮影状況に応じて、手動でピント合わせができます。
以下のようなときに使います。

ー水滴の付いた窓の向こうの被写体
ー横じまの多い被写体
ー背景とコントラストの弱い被写体
ー意図的にピントを手前の被写体から奥の被写体に送るとき



ー三脚で撮影する静止した被写体



1 撮影またはスタンバイ中に、フォーカススイッチを「手動」にする。

が表示されます。

2 フォーカスリングを回し、ピントが合うように調節する。

は、ピントをそれ以上遠くに合わせられないとき に変わり、それ以上近くに合わせられないとき に変わります。

ピント合わせのコツ

- 始めにズームをT側（望遠）でピントを合わせてから、W側（広角）に戻していきます。
- 接写時は、逆にズームをW側（広角）いっぱいにしてピントを合わせます。

◆遠くの被写体にピントを合わせるには

フォーカススイッチを「無限」にして撮影する。

が表示されます。
指を離すと手動ピント合わせに戻ります。
遠くの被写体を撮りたいのに、近くの被写体にピントが合ってしまうときに使います。

◆拡大表示をしてピント合わせするには

拡大フォーカスボタンを押す。

［拡大フォーカス］が表示され、画面中央が約2倍に拡大されます。ピントが合っているかを確認するときに便利です。約5秒後に元に戻ります。
フォーカスリングを回している間は拡大したままですが、フォーカスリングから手を離すと約2秒後に元に戻ります。また、拡大表示中に録画スタート/ストップボタンを押すと、拡大表示は解除されます。

◆自動ピント合わせに戻すには

フォーカススイッチを「自動」にする。

◆一時的にオートフォーカスで撮るには

押 自動ボタンを押して撮影する。

指を離すと手動ピント合わせに戻ります。

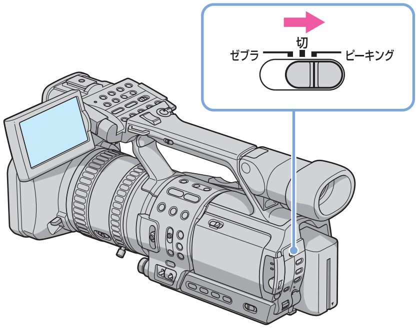
手動ピント合わせで、ある被写体から別の被写体にピントを移すようなときに使うと、なめらかな場面展開になります。

ちょっと一言

- 次のとき、フォーカス距離情報（ピントが合う距離。暗くてフォーカスが合わせにくいときに目安として使用します）を約3秒間表示します。（別売りのコンバージョンレンズを付けているときは正しく表示されません。）
  - ピントを合わせる設定を自動から手動に切り換えたとき
  - フォーカスリングを回したとき

輪郭を強調してピントを合わせる—ピーキング

画面上に画像の輪郭が強調して表示されるので、ピントが合わせやすくなります。



撮影またはスタンバイ中に、ゼブラ/ピーキングスイッチを「ピーキング」にする。

◆ピーキングを解除するには

ゼブラ/ピーキングスイッチを「切」にする。

ご注意

- ピーキングはテープに記録されません。
- ゼブラパターン機能を使用中（30ページ）はピーキング機能を使えません。

ちょっと一言

- 拡大フォーカス表示と一緒に使うと、ピントが合わせやすくなります。

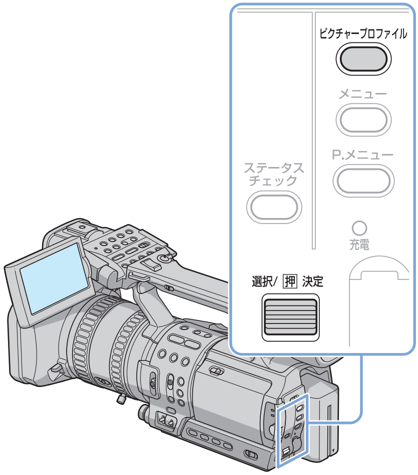
画質や音を好みに合わせる

好みの画質に設定する―ピクチャープロファイル

色の濃さや明るさ、ホワイトバランスなどを調節して好みの画質設定を作れます。6種類の画質を設定できるので、撮影時間帯や気象条件、または使う人ごとに設定できます。
設定するときは、本機をテレビやモニターにつないで、画像を確認しながら調節してください。
お買い上げ時は、[PP1] から [PP6] に、撮影条件に合わせた設定値があらかじめ登録されています。

ピクチャープロファイル番号	撮影条件
PP1	HDV撮影に適した設定値
PP2	DV撮影に適した設定値
PP3	人物撮影向けの設定値
PP4	映画のような映像を撮影するときの設定値
PP5	夕焼けを撮影するときに適した設定値
PP6	モノトーン撮影するときの設定値

[PP1] から [PP6] のお買い上げ時の設定を変更できます。



1 スタンバイ中に、ピクチャープロファイルボタンを押す。

2 選択/押 決定ダイヤルを回してピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。
[PP1]から[PP6]まで選べます。

3 選択/押 決定ダイヤルを回して [設定変更] を選び、押して決定する。

4 選択/押 決定ダイヤルを回して調節したい項目を選び、押して決定する。

5 選択/押 決定ダイヤルを回して画質を調節し、押して決定する。

項目	調節する内容
[色のこさ]	–7（薄くなる）～+7（濃くなる） –8 ：白黒で撮影する。
[色相]	–7（緑がかる）～+7（赤みがかる）
[シャープネス]	0（輪郭が柔らかくなる）～15（くっきりする）

次のページへつづく➡

項目	調節する内容
［スキントーンディテール］	肌色部分の輪郭強調を抑えて、肌のしわを目立たなくする。 ［タイプ1］（肌色と認識する色の領域が狭い）～［タイプ3］（肌色と認識する色の領域が広い） ［切］：設定しない。
［AEシフト］	-7（暗くなる）～+7（明るくなる）
［AGCリミット］	オートゲインコントロール（AGC）の上限値を選ぶ（［切］、12dB、6dB、0dB）。 ［切］は18dBになります。
［オートアイリスリミット］	アイリス設定が自動のとき、絞りの上限値を選ぶ（F11, F6.8, F4）。
［WBシフト］	-7（白い部分が青みがかる）～+7（赤みがかる）
［AWB感度］	白熱電球やろうそくなど赤みの強い光源下や、屋外の日陰など青みの強い光源下でのオートホワイトバランスの動作を設定する。 ［高］（赤みや青みが減る）－［中］－［低］（赤みや青みが増す） 晴天時の日向では効果がありません。
［シネマトーンガンマ］	［入］：フィルムカメラに近い自然な階調性を再現するガンマカーブで撮影する。
［シネフレーム］	［シネフレーム30］：映画のような雰囲気を楽しめるモード。［シネフレーム24］より、映像にスムーズ感が出せる。 ［シネフレーム24］：映画で使用されている24コマの雰囲気を楽しめるモード。 ［切］：通常の撮影。
［コピー］	他のピクチャープロファイル番号に設定をコピーする。
［リセット］	ピクチャープロファイルをお買い上げ時の設定に戻す。

6 **4～5を繰り返して他の項目を調節する。**

7 **選択/[押]決定ダイヤルを回して［↩戻る］を選び、押して決定する。**

8 **選択/[押]決定ダイヤルを回して［決定］を選び、押して決定する。**

ピクチャープロファイルの表示が出ます。

◆ピクチャープロファイル撮影をやめるには

手順2で［切］を選び、選択/[押]決定ダイヤルを押して決定する。

◆ピクチャープロファイルの設定を確認するには

撮影またはスタンバイ中に、ステータスチェックボタンを押す（24ページ）。

◆ピクチャープロファイルを他のピクチャープロファイル番号にコピーするには

1. ピクチャープロファイルボタンを押す。
2. 選択/[押]決定ダイヤルを回してコピー元のピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。
3. 選択/[押]決定ダイヤルを回して［設定変更］を選び、押して決定する。
4. 選択/[押]決定ダイヤルを回して［コピー］を選び、押して決定する。
5. 選択/[押]決定ダイヤルを回してコピー先のピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。
6. 選択/[押]決定ダイヤルを回して［はい］を選び、押して決定する。
   コピーしないときは、［いいえ］を選びます。
7. ピクチャープロファイルボタンを押す。

◆お買い上げ時の設定に戻すには

ピクチャープロファイル番号ごとに取り消せます。すべての設定を一度に取り消すことはできません。

1 ピクチャープロファイルボタンを押す。

2 選択/押決定ダイヤルを回してお買い上げ時の設定に戻したいピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。

3 選択/押決定ダイヤルを回して［設定変更］を選び、押して決定する。

4 選択/押決定ダイヤルを回して［リセット］を選び、押して決定する。

5 選択/押決定ダイヤルを回して［はい］を選び、押して決定する。
取り消さないときは、［いいえ］を選びます。

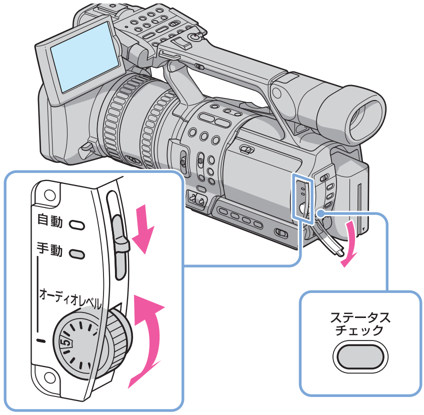
6 ピクチャープロファイルボタンを押す。

ご注意

- ［スキントーンディテール］で［タイプ3］を選択している場合、肌色でない部分に効果が出ることがあります。
- アイリス、シャッタースピード、ゲインをすべて手動調節していると、［AEシフト］の効果が表れません。
- アイリスを手動調節していると、［オートアイリスリミット］の効果が表れません。
- ［オートアイリスリミット］の設定よりも被写体が明るいときは、シャッタースピードが最大1/2000まで自動的に調整されます。
- ゲインを手動調節していると、［AGCリミット］の効果が表れません。
- ［シネフレーム24］を選ぶと、シャッタースピードを1/30以下に設定していても、強制的に1/60に設定されます。
- ［シネフレーム30］を選ぶと、シャッタースピードを1/15以下に設定していても、強制的に1/30に設定されます。

録音レベルを調節する―マイク音レベル

撮影するときのマイクの音量を調節できます。ヘッドホンをつけて音量を確認することをおすすめします。



1 カバーを外して、音声選択スイッチを「手動」にする。
音声レベルメーターが表示されます。

2 撮影またはスタンバイ中に、オーディオレベルダイヤルを回して、マイクの音量を調節する。

◆自動調節に戻すには

音声選択スイッチを「自動」にする。

ご注意

- 映像/音声端子またはHDV/DV端子から入力された音声の音量は調節できません。

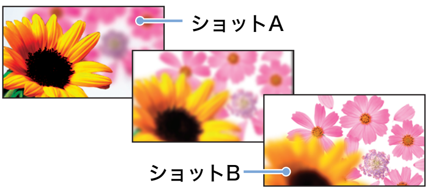
ちょっと一言

- 音声設定の詳しい情報を確認するときは、ステータスチェックボタンを押してください（24ページ）。自動調節時のマイク音レベルを確認することもできます。

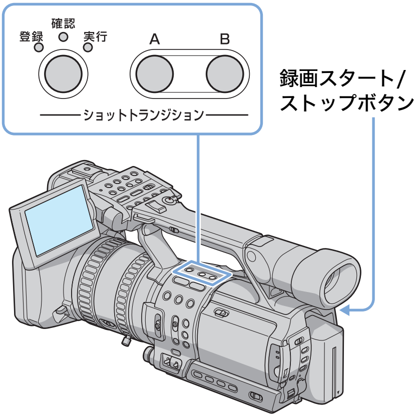
使いこなして撮る

ショットトランジションを使う

フォーカス、ズーム、アイリス、ゲイン、シャッタースピード、ホワイトバランスの設定を登録し、登録した設定へなめらかに遷移（ショットトランジション）することができます。
例えば、画面手前にフォーカスが合っている状態から徐々に画面奥の被写体にフォーカス送りをしたり、アイリスを設定して被写界深度を変化させたりできます。また、ホワイトバランスなどの手動調節機能を登録して、屋内の被写体から屋外の被写体へと、異なる撮影環境の間もなめらかに場面を切り換えることができます。
手ぶれを防ぐために三脚を使うことをおすすめします。



（カメラ設定）メニューの［ショットトランジション］で遷移カーブや遷移時間を設定できます（52ページ）。



◆準備1：設定（ショット）を登録する

1 登録/確認/実行ボタンを繰り返し押して、登録ランプを点灯させる。
2 手動で調節する。
アイリスなどのカメラ設定をするときは、オートロックスイッチを中央（オートロック解除位置）にしてください。各機能の調整のしかたについては、25～28ページをご覧ください。
3 登録するボタン（AまたはB）を押す。
選んだボタンに登録されます。

ご注意
• ショットAとショットBに登録した設定値は、電源スイッチを「切（充電）」にすると消去されます。

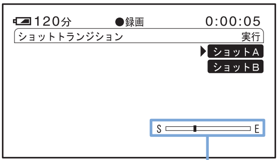
◆準備2：登録したショットを確認する

1 登録/確認/実行ボタンを繰り返し押して、確認ランプを点灯させる。
2 設定を登録したボタン（AまたはB）を押す。
登録したショットの画像に変わります。
フォーカスやズームなどが登録した設定に自動的に調節されます。

ご注意
• （カメラ設定）メニューで設定した［トランジションカーブ］や［トランジションタイム］で遷移する様子は確認できません。

◆ショットトランジションを使って撮影する

1 登録/確認/実行ボタンを繰り返し押して、実行ランプを点灯させる。
2 録画スタート/ストップボタンを押す。
3 希望の設定を登録したボタン（AまたはB）を押す。
現在の録画設定から、登録した設定に遷移します。



トランジションバー
S：スタート
E：エンド

ご注意

- ショットトランジションの確認と実行操作中は、手動調節やズーム、フォーカスは働きません。
- （カメラ設定）メニューの［ショットトランジション］を変更するときは、登録/確認/実行ボタンを繰り返し押して、ランプを消してから操作してください。
- 任意の設定からショットトランジションを実行したとき、登録したショット（AまたはB）から元の設定に戻すことはできません。
- ショットトランジション操作中に次のボタンを押すと、ショットトランジションが解除されます。
  - ー ピクチャープロファイル
  - ー メニュー
  - ー P.メニュー
  - ー 拡大フォーカス
  - ー ステータスチェック

ちょっと一言

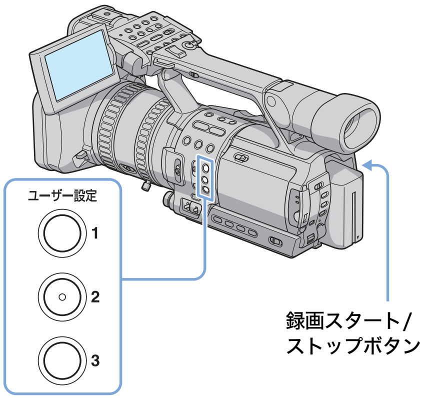
- 登録したショットAからショットBへ、またはその逆に遷移することもできます。例えばショットAからショットBに遷移するときは、確認ランプを点灯させてAボタンを押し、録画スタート/ストップボタンを押します。次に実行ランプを点灯させてBボタンを押してください。
- 手順2で録画スタート/ストップボタンを押す前に、希望の設定を登録したボタン（AまたはB）を押すと、ショットトランジションのリハーサルができます。

◆ショットトランジションを解除するには

登録/確認/実行ボタンを繰り返し押して、ランプを消す。

効果的な場面転換をする —フェーダー

場面と場面の間に、次のような効果を入れながらつなぎ撮りするときに使います。
あらかじめユーザー設定ボタンにフェーダー機能を割り当ててください。ユーザー設定の割り当てかたについては、66ページをご覧ください。





フェードアウト　フェードイン

［ホワイトフェーダー］



［ブラックフェーダー］



次のページへつづく➡

1 **スタンバイ中（フェードインのとき）または撮影中（フェードアウトのとき）に、フェーダー機能を割り当てたユーザー設定ボタンを繰り返し押して、希望の効果を選ぶ。**

押すたびに、[ホワイトフェーダー] → [ブラックフェーダー] → （表示なし）に切り換わります。

2 **録画スタート/ストップボタンを押す。**

フェーダー表示が点灯に変わり、フェード終了後に消えます。

◆フェードイン・フェードアウトを解除するには

フェーダー機能を割り当てたユーザー設定ボタンを繰り返し押して、フェーダー表示を消す。

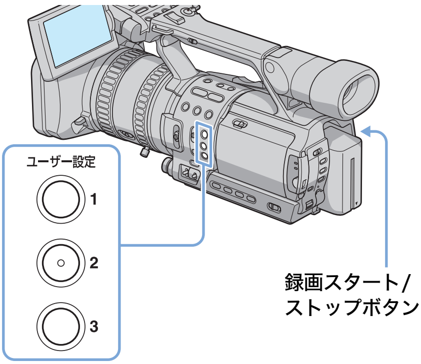
ご注意

- ［コマ撮り］中は、フェードイン・フェードアウトは働きません。DV

録画開始時にインデックス信号を打ち込む

インデックス信号を打ち込んで撮影すると、その場面を頭出しできます（49ページ）。インデックスの変わり目を確認したり、インデックスごとに編集するときに便利です。

あらかじめユーザー設定ボタンにインデックス機能を割り当ててください。ユーザー設定の割り当てかたについては、66ページをご覧ください。



インデックス機能を割り当てたユーザー設定ボタンを押す。

撮影中に押したとき

約7秒間 が表示され、インデックス信号が記録されます。

スタンバイ中に押したとき

が点滅します。

録画スタート/ストップボタンを押して録画を始めると、約7秒間 が表示され、インデックス信号が記録されます。

◆インデックス打ち込みを取り消すには

録画を始める前に、インデックス機能を割り当てたユーザー設定ボタンをもう一度押す。

ご注意

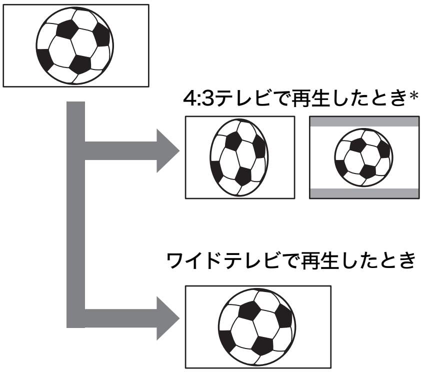
- 撮影したテープにインデックスを後から打ち込むことはできません。

ワイドTVモードで撮る DV

DV規格で撮影した画像を、ワイドテレビ/4:3テレビで画面いっぱいに映るように撮影できます。
つなぐテレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

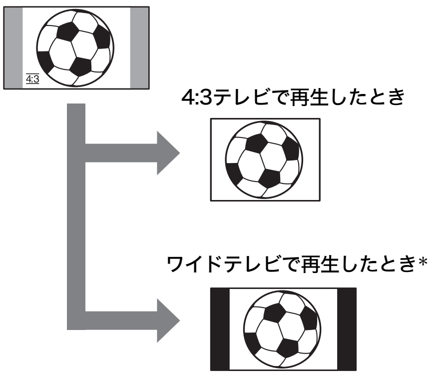
[入]
ワイドテレビで再生するときに選びます。

［入］にして液晶画面・ファインダーで見たとき

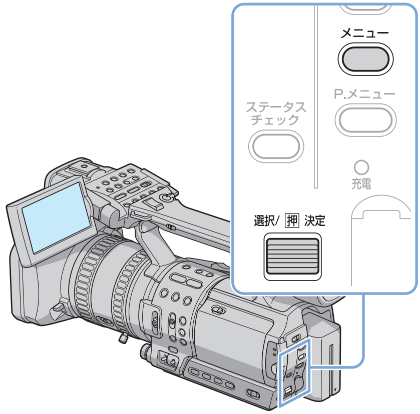


[切]
4:3テレビで再生するときに選びます。

［切］にして液晶画面・ファインダーで見たとき（左右が半透明で表示される）



＊接続するテレビによって、再生時の表示のされかたが異なります。



1 **スタンバイ中に、メニューボタンを押す。**

2 **選択/押決定ダイヤルを回して（カメラ設定）メニューを選び、押して決定する。**

3 **選択/押決定ダイヤルを回して［DV ワイド記録］を選び、押して決定する。**

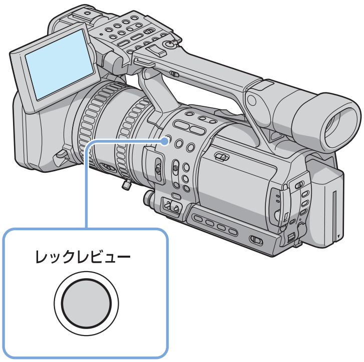
4 **再生するテレビに合わせて［入］または［切］を選び、選択/押決定ダイヤルを押す。**

5 **メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。**

撮る

テープの位置を確認する —レックレビュー

テープを停止させた場面を数秒間再生し、確認できます。

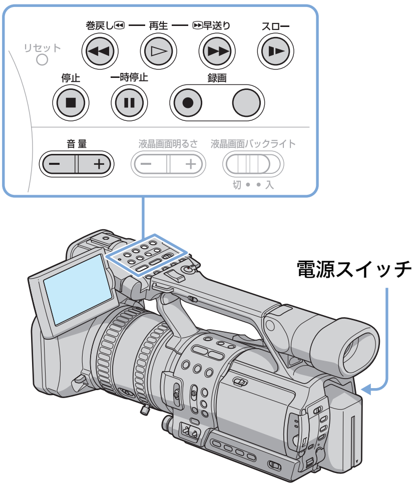


スタンバイ中に、レックレビューボタンを押す。

テープを停止した部分が数秒間再生され、スタンバイに戻ります。

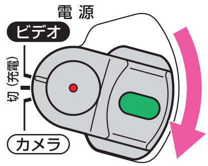
再生する

あらかじめカセットを入れておいてください。
一部の操作はリモコンでも行えます。
テレビで見るときは、45ページをご覧ください。
再生時は、⇆（入出力/録画設定）メニューの［ビデオ HDV/DV］を［オート］にしてください（お買い上げ時の設定）。



1 液晶パネルを開けて、好みの角度に調節する。

2 緑のボタンを押しながら、電源スイッチを「ビデオ」にする。



3 ◀◀巻戻しボタンを押して、見たい位置まで巻き戻す。

4 ►再生ボタンを押す。

◆音量を調節するには

音量ボタン－（小さく）/＋（大きく）を押して調節する。

◆再生を停止するには

■停止ボタンを押す。

◆一時停止するには

再生中に❚❚一時停止ボタンを押す。
►再生ボタンまたは❚❚一時停止ボタンを押すと、ふつうの再生に戻ります。
一時停止状態が3分以上続くと、自動的に停止になります。

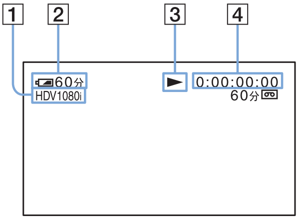
◆早送り・巻き戻しするには

停止中に▶▶早送りボタン/◀◀巻戻しボタンを押す。

◆ファインダーで見るには

液晶パネルを閉じて、ファインダーを見やすい角度に調節する。

◆テープ再生中の表示



1 再生信号の規格（HDV1080iまたはDV）/ 録画モード（SPまたはLP）

2 バッテリー残量

3 テープ走行表示

4 タイムコード（時：分：秒：フレーム）またはテープカウンター（時：分：秒）

本機のタイムコードはドロップフレーム方式を採用しています。

ご注意

- HDVとDV規格が混在したテープを再生するときは、HDVとDVの信号が切り換わるときに、一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。
- HDV規格で記録したテープは、DV規格のビデオカメラやミニDVデッキでは再生できません。
- 録画モード（SPまたはLP）は、DV規格で記録されたテープを再生するときに表示されます。

ちょっと一言

- 外部のモノラルマイクを接続して撮影したテープを再生するときは、55ページの［バイリンガル］をご覧ください。

テープでできるいろいろな再生

◆画像を見ながら早送り・巻き戻しするには － ピクチャーサーチ

再生中に▶▶早送りボタン/◀◀巻戻しボタンを押し続ける。

離すと、ふつうの再生に戻ります。

◆早送り・巻き戻し中に画像を見るには － 高速アクセス

早送り中に▶▶早送りボタン、巻き戻し中に◀◀巻戻しボタンを押し続ける。

離すと、早送り・巻き戻しに戻ります。

◆その他の変速再生をするには

音声は出ません。また、前の映像がモザイク状に残ることがあります。

こんなときは	操作するボタン
逆方向に再生する*	再生中にリモコンの<（逆方向）
スロー再生する	再生中にI▶（スロー） 逆方向へは以下の順DV： ❶リモコンの<（逆方向） ❷I▶（スロー）
2倍速で見る（倍速再生）DV	再生中にリモコンの×2（倍速） 逆方向へは以下の順： ❶リモコンの<（逆方向） ❷リモコンの×2（倍速）
コマ送りで見る	一時停止中にリモコンのII▶（コマ送り） 逆方向へは一時停止中にリモコンの◀II（コマ送り） DV

▶再生ボタンを押すと、ふつうの再生に戻ります。

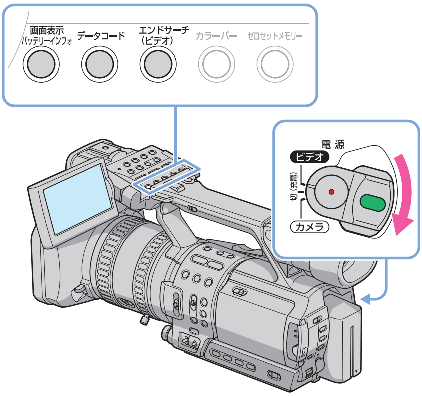
＊画面上下や中央に横じまが入ることがありますが、故障ではありません。

ご注意

- HDV規格の場合、一時停止や変速再生している映像をi.HDV/DV端子から出力することはできません。
- HDV規格のテープでは、以下のとき画面が乱れます。
  - ー ピクチャーサーチ中
  - ー 逆方向再生中

再生の便利な機能

最後に撮影した場面を頭出ししたり、撮影した日付やカメラデータ（設定情報）を表示したりできます。



最後に録画した場面を頭出しする—エンドサーチ

現在のテープ位置に関係なく、最後に録画終了した場面を頭出しできます。カセットをいったん取り出すと、エンドサーチは働きません。

1　電源スイッチを「ビデオ」にする。

2　エンドサーチ（ビデオ）ボタンを押す。

最後に録画した場面の約5秒間が再生されます。

◆「エンドサーチ」を中止するには

エンドサーチ（ビデオ）ボタンを押す。

ご注意

- テープの途中に無記録部分があると、エンドサーチが正しく働かない場合があります。

画面表示を出す・消す

タイムコードなどの情報を画像とあわせて表示できます。

画面表示/バッテリーインフォボタンを押す。

押すたびに、（非表示）←→（表示）と変わります。

ちょっと一言

- テレビにつないで見るときは、（その他）メニューで［画面表示出力］を［ビデオ出力／パネル］に設定すると、テレビ画面でも同様に画面表示できます（61ページ）。ただし、HDVテープ再生時は、（入出力/録画設定）メニューで［コンポーネント出力］を［D3］に設定した場合、走行モード表示とテープカウンターしか表示されません。

日付時刻・カメラデータを表示する—データコード機能

撮影時に自動的に記録される日付時刻データやカメラデータ（設定情報）を再生中に見ることができます。

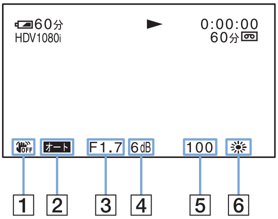
1　電源スイッチを「ビデオ」にする。

2　再生または再生一時停止中に、本体またはリモコンのデータコードボタンを押す。

押すたびに、日付表示→カメラデータ→（表示なし）に切り換わります。

◆カメラデータの表示

日付時刻データ表示のときは、同じエリアに日時が表示されます。日付・時刻を設定せずに撮影すると［---- -- --］と［--:--:--］が表示されます。



1 手ぶれ補正［切］

2 明るさ調節

3 絞り値

手動で絞り値を最大にしておくと、絞り値の場所に クローズ と表示されます。

4 ゲイン

5 シャッタースピード

6 ホワイトバランス

ショットトランジション撮影した画像を再生すると、PWB が表示されます。

◆カメラデータを表示しないようにするには

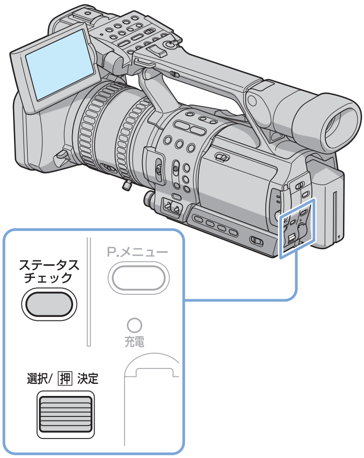
（その他）メニューの［データコード］で［日付データ］を選ぶ（61ページ）。

データコードボタンを押すたびに、日付表示 →（表示なし）に切り換わります。

ビデオ情報を表示する—ステータスチェック

以下の項目がどのような設定値になっているかを確認できます。

- 音声ミックスなどの音声設定（55ページ）
- 出力に関する設定（［ビデオ HDV/DV］など）（57ページ）
- ユーザー設定ボタンに割り当てた機能（66ページ）



1 ステータスチェックボタンを押す。

2 選択/押 決定ダイヤルを回して、項目を表示する。

回すたびに、オーディオ→出力→ユーザー設定に切り換わります。

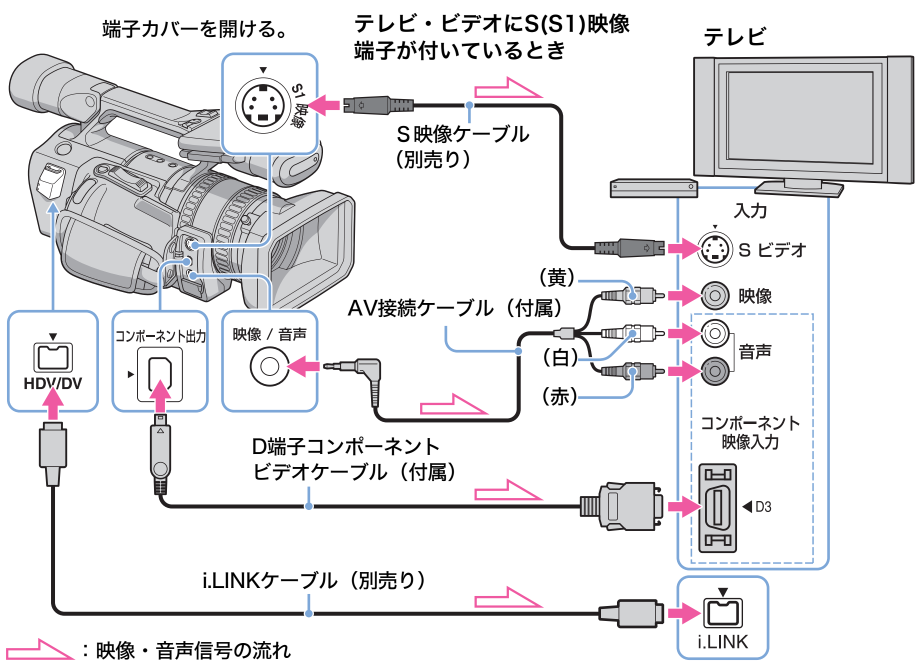
◆ビデオ情報表示を消すには

ステータスチェックボタンを押す。

テレビにつないで見る

テレビによって接続のしかたが異なります。電源は別売りのACアダプター /チャージャーを使ってコンセントからとってください（14ページ）。また、つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
ダビングするときは、67ページをご覧ください。

ハイビジョンテレビで見る



次のいずれかでつなぐ。

i.LINKケーブルでつなぐ

HDV/DV対応のi.LINK端子が搭載されているテレビ（93ページの表を参照）と接続するときは、この方法をおすすめします。

- i.LINKケーブルをつなぐ前に、⇆（入出力/録画設定）メニューの［ビデオ HDV/DV］を［オート］にしてください（お買い上げ時の設定）。
- i.LINK接続の場合は、テレビに本機を認識させるために、テレビ側の設定が必要です。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。対応する機種の最新情報については、裏表紙の「デジタルハンディカムの最新サポート情報」のホームページをご覧ください。

見る

次のページへつづく➡

D端子コンポーネントビデオケーブルでつなぐ

- HDV規格で記録したテープを見るときは、（入出力/録画設定）メニューの［コンポーネント出力］をテレビに合わせて設定してください（58ページ）。DV規格で記録したテープは、［D3］に設定していてもD1相当の信号が出力されます。
- D端子コンポーネントビデオケーブルからは映像のみ出力されます。音声を出力するには、付属のAV接続ケーブルの白と赤のプラグも接続してください。

AV接続ケーブルでつなぐ

接続先の機器にS(S1)映像端子が付いているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）の代わりにS映像ケーブル（別売り）で本機のS1映像端子と接続先のS(S1)映像端子を接続することをおすすめします。画像をより忠実に再現できます。S映像ケーブルのみつないだ場合、音声は出力されません。

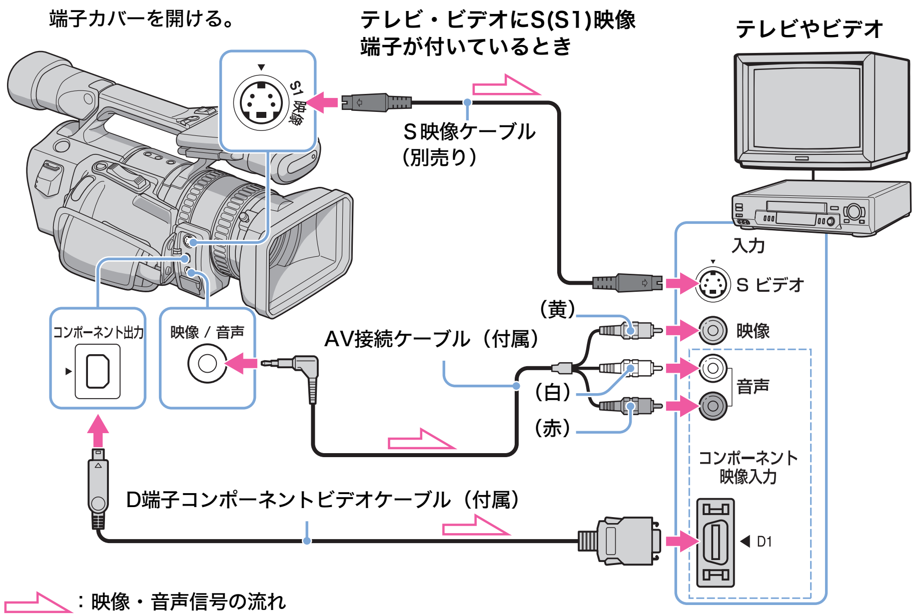
ご注意

- ［ビデオ HDV/DV］はi.LINKケーブルをつなぐ前に設定してください。つないでから設定を変えると、テレビが映像信号を正しく認識できないことがあります。
- テレビにD端子がない場合は、別売りのコンポーネントケーブルで接続できるものもあります。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 著作権保護のための信号が記録されているDV規格の映像を、コンポーネント出力端子から出力することはできません。

ちょっと一言

- アナログ信号から画像を出力するときに、複数のケーブルでテレビをつないでいるときは、コンポーネントビデオ端子→S映像端子→映像/音声端子の順で優先されます。
- i.LINKについて、詳しくは95ページをご覧ください。

ワイドテレビ/4：3テレビで見る



次のいずれかでつなぐ。

D端子コンポーネントビデオケーブルでつなぐ

D端子が搭載されているテレビと接続するときは、この方法をおすすめします。

- HDV規格で記録したテープを見るときは、（入出力/録画設定）メニューの［コンポーネント出力］をテレビに合わせて設定してください（58ページ）。DV規格で記録したテープは、［D3］に設定していてもD1相当の信号が出力されます。
- D端子コンポーネントビデオケーブルからは映像のみ出力されます。音声を出力するには、付属のAV接続ケーブルの白と赤のプラグも接続してください。

AV接続ケーブルでつなぐ

接続先の機器にS(S1)映像端子が付いているときは、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）の代わりにS映像ケーブル（別売り）で本機のS1映像端子と接続先のS(S1)映像端子を接続することをおすすめします。画像をより忠実に再現できます。高解像度を生かすためには、S映像ケーブルで接続してください。S映像ケーブルのみつないだ場合、音声は出力されません。

◆4:3テレビで見るには

- HDV規格で記録したテープを4:3テレビで見るには、（入出力/録画設定）メニューの［TVタイプ］を［4:3］にしてください（59ページ）。
- DV規格で記録したテープを4:3テレビで再生するときは、撮影時に（カメラ設定）メニューの［DV ワイド記録］を［切］にしてください（39ページ）。

◆ビデオがテレビにつながっているときは

ビデオの外部入力端子につなぎ、ビデオの入力を「外部入力（ライン）」に切り換える。

◆モノラルテレビ（音声端子がひとつ）のときは

AV接続ケーブル（付属）の黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ（左音声）か赤いプラグ（右音声）のどちらかを音声入力へつなぐ。

モノラル音声で聞くときは、市販の接続ケーブルを使ってください。

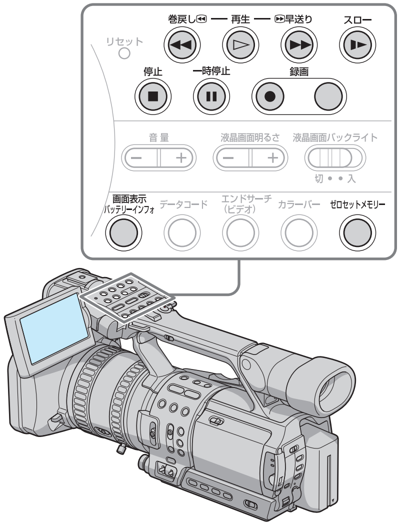
ご注意

- 著作権保護のための信号が記録されているDV規格の映像を、コンポーネント出力端子から出力することはできません。

見る

テープの画像を頭出しする

見たい場面にすばやく戻す —ゼロセットメモリー



1 再生中、後で頭出しする場面で本体またはリモコンのゼロセットメモリーボタンを押す。

テープカウンター値が「0:00:00」になり、➔0⬅が点灯します。

テープカウンター値が表示されないときは、画面表示/バッテリーインフォボタンを押すと、表示されます。

2 見終わったら、■停止ボタンを押す。

3 ◀◀巻戻しボタンを押す。

テープカウンター値が「0:00:00」付近になると、自動的に停止します。

4 ►再生ボタンを押す。

テープカウンター値が「0:00:00」の場面からもう一度再生します。

◆ゼロセットメモリーを解除するには

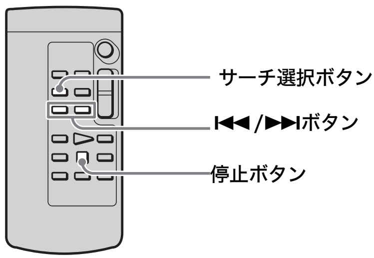
ゼロセットメモリーボタンを押す。

ご注意

- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が出ることがあります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かない場合があります。

撮影日でテープを頭出しする — 日付サーチ

撮影日の変わり目を頭出しできます。



1 電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 リモコンのサーチ選択ボタンを繰り返し押して、「日付サーチ」を選ぶ。

3 リモコンのI◀◀（前の日付）/ ▶▶I（後の日付）ボタンを押して、頭出しする。

現在のテープ位置に対して前後の日付を選びます。

選んだ場面で自動的に再生します。

◆サーチを中止するには

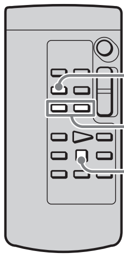
リモコンの停止ボタンを押す。

ご注意

- 日付の変更点の間隔は２分以上必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく頭出しできないことがあります。

録画の開始位置を探す―インデックスサーチ

撮影開始時に打ち込んだインデックス（38ページ）を頭出しできます。



1 電源スイッチを「ビデオ」にする。

2 リモコンのサーチ選択ボタンを繰り返し押して、「インデックスサーチ」を選ぶ。

3 リモコンの⏮（前のインデックス）/⏭（後のインデックス）ボタンを押して、頭出しする。

現在のテープ位置に対して前後のインデックスを選びます。
選んだ場面で自動的に再生します。

◆サーチを中止するには

リモコンの停止ボタンを押す。

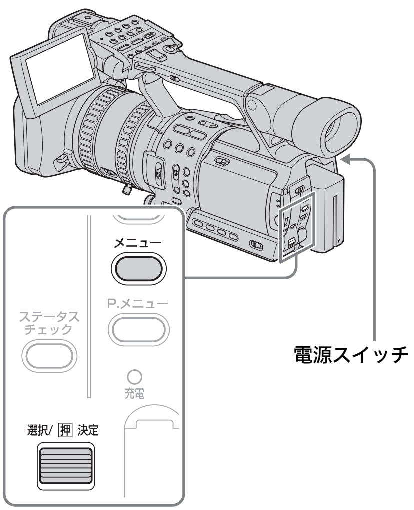
ご注意

- インデックスの間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく頭出しできないことがあります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく頭出しできないことがあります。

メニューで設定する

メニュー項目の使いかた

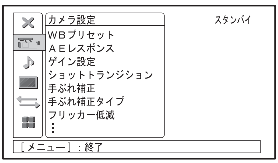
画面に表示されるメニューで、お好みの設定やより細かい設定ができます。



1 電源を入れる（15ページ）。

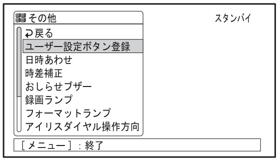
2 メニューボタンを押す。

メニューインデックス画面が表示されます。



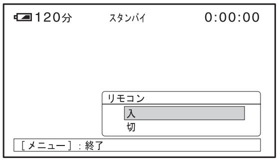
3 選択/押 決定ダイヤルを回してメニューのマークを選び、押して決定する。

- カメラ設定（51ページ）
- 音声設定（55ページ）
- パネル/VF設定（56ページ）
- 入出力/録画設定（57ページ）
- その他（60ページ）

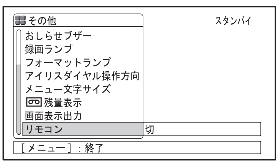


4 選択/押 決定ダイヤルを回して設定する項目を選び、押して決定する。

設定できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。選択できない項目は暗くなります。



5 選択/押 決定ダイヤルを回して希望の設定を選び、押して決定する。



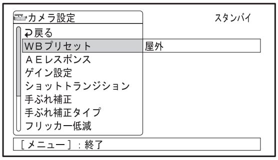
6 メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

［戻る］を選ぶと1つ前の階層に戻ります。

（カメラ設定）メニューを使う—手ぶれ補正タイプ・コマ撮りなど

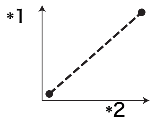
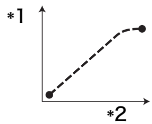
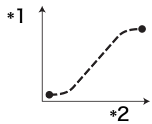
（カメラ設定）メニューでは、「メニュー項目の使いかた」（50ページ）の操作で以下を設定できます。

▷の設定がお買い上げ時の設定です。設定すると（ ）内のアイコンが表示されます。調整できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。そのとき使える項目が表示されます。使えない項目は暗くなります。



項目	設定
WBプリセット	プリセットホワイトバランスを使うときに選びます。詳しくは26ページをご覧ください。
AEレスポンス	被写体の明るさに追従して露出を自動調整する速度を選びます。 ［高速］［中速］［低速］から選びます。お買い上げ時は［高速］に設定されています。
ゲイン設定	ゲインスイッチ「H」「M」「L」の調整値を設定するときに選びます（28ページ）。 **1** 選択/押 決定ダイヤルを回して［H］［M］［L］のいずれかを選び、押して決定する。 **2** 選択/押 決定ダイヤルを回してゲインの調整値を選び、押して決定する。 0dB、3dB、6dB、9dB、12dB、15dB、18dBから選びます。 数値が大きくなるほど、ゲインが上がります。 **3** 選択/押 決定ダイヤルを回して［決定］を選び、押して決定する。 **4** メニューボタンを押し、メニュー画面を消す。

次のページへつづく➡

項目	設定
ショットトランジション	ショットトランジションの［トランジションタイム］と［トランジションカーブ］を設定をするときに選びます。ショットトランジションの操作方法については、36ページをご覧ください。 **トランジションタイム** 遷移時間を選びます。［2.0秒］～［15.0秒］から選びます。 お買い上げ時は［4.0秒］に設定されています。 **トランジションカーブ** 遷移カーブを選びます。 各モードのトランジションカーブは図のように遷移します。 *1：パラメーター量 *2：時間の遷移 **リニア**　直線的に遷移したいときに選びます。  **▷ソフトストップ** 終了地点付近をゆっくり遷移したいときに選びます。  **ソフトトランジション** 開始と終了地点付近はゆっくり遷移し、中間は直線的に遷移したいときに選びます。  **ご注意** • ［ショットトランジション］を設定するときは、登録/確認/実行ボタンを繰り返し押して、ランプを消してから操作してください（36ページ）。
手ぶれ補正	**▷入**　手ぶれ補正が働きます。［手ぶれ補正タイプ］で手ぶれ補正の効果を選べます。 **切（ ）**　手ぶれ補正が働きません。三脚を利用しての撮影時に選ぶと、より自然な画像になります。ユーザー設定ボタンを使って、手ぶれ補正を解除することもできます（66ページ）。 **ご注意** • VCL-HG0872ワイドコンバージョンレンズ（別売り）以外のコンバージョンレンズを装着した場合は、手ぶれ補正が効きにくくなります。 • VCL-HG0872ワイドコンバージョンレンズ（別売り）を装着して撮影するときは、［手ぶれ補正タイプ］で［ワイドコンバージョン］を選択してください（53ページ）。

項目	設定
手ぶれ補正タイプ	撮影状況に合わせて手ぶれ補正の効果を選ぶことができます。手ぶれ補正を解除したいときは、メニューの［手ぶれ補正］で［切］を選ぶ、またはユーザー設定ボタンを使います（66ページ）。 **ハード**　強めに手ぶれ補正を働かせるときに選びます。パン・ティルト撮影には向きません。 **▷スタンダード**　通常の手ぶれ補正を使うときに選びます。 **ソフト**　自然な手ぶれ感を残しつつ、手ぶれ補正を働かせるときに選びます。 **ワイドコンバージョン**　ワイドコンバージョンレンズ（別売り）を使って撮影するときに選びます。ソニー製のVCL-HG0872ワイドコンバージョンレンズ（別売り）を使うときに最適な設定です。
フリッカー低減	**▷入**　通常の撮影時に選びます。電源周波数が50Hzの蛍光灯などの光源下で画面のちらつきを軽減します。 **切**　フリッカーを低減したくないときに選びます。 **ご注意** • 照明によっては低減効果が現れないことがあります。
ハンドルズームスピード	ハンドルズーム切換スイッチの「H」と「L」のズームスピードを設定するときに選びます（22ページ）。 **1** 選択/押 決定ダイヤルを回して［H］または［L］を選び、押して決定する。 **2** 選択/押 決定ダイヤルを回してズームスピードを選び、押して決定する。 1～8から選びます。 数値が大きくなるほど、スピードが速くなります。 **3** 選択/押 決定ダイヤルを回して［決定］を選び、押して決定する。 **4** メニューボタンを押し、メニュー画面を消す。
ゼブラレベル	詳しくは30ページをご覧ください。
センターマーカー	**▷切**　センターマーカーを画面に出さないときに選びます。 **入**　センターマーカーを画面に出すときに選びます（21ページ）。 **ご注意** • センターマーカーとその位置は、調整や設定、撮影には影響ありません。

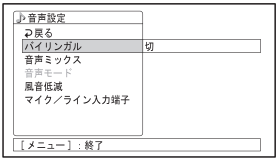
次のページへつづく➡

項目	設定
コマ撮り DV	本機を固定した状態で人形やおもちゃなどを少しずつ動かしながらコマ撮りをすると、アニメーションのような効果を出せます。リモコンを使うと手ぶれを防げます。 **▷切**　通常の撮影時に選びます。 **入（）**　コマ撮りするときに選びます。 **1** 選択/押 決定ダイヤルを回して［入］を選び、押して決定する。 **2** メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。 **3** 録画スタート/ストップボタンを押す。 1コマ（約6フレーム）分を撮影し、スタンバイに戻ります。 **4** 被写体を動かし、手順3を繰り返す。 **ご注意** • 連続してコマ撮りをすると、テープ残量は正しく表示されません。 • 最終カットは通常の1コマよりも長くなります。 • コマ撮り中はインデックスは打ち込めません。
DV ワイド記録 DV	詳しくは39ページをご覧ください。

♪（音声設定）メニューを使う—音声ミックスなど

♪（音声設定）メニューでは、「メニュー項目の使いかた」（50ページ）の操作で以下を設定できます。

▷の設定がお買い上げ時の設定です。設定すると（ ）内のアイコンが表示されます。調整できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。そのとき使える項目が表示されます。使えない項目は暗くなります。

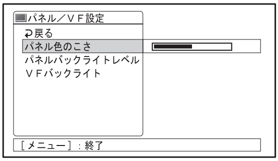


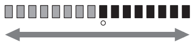
項目	設定
バイリンガル	他機で二重音声（またはステレオ音声）で記録したテープを本機で再生するときの音声が選べます。 **▷切**　主＋副音声（またはステレオ音声）で再生するときに選びます。 **メイン**　主音声（または左音声）で再生するときに選びます。 **サブ**　副音声（または右音声）で再生するときに選びます。 **ご注意** • 本機では二重音声を再生できますが、記録できません。 • 電源をはずして５分以上経つと、［切］に自動的に戻ります。 **ちょっと一言** • 外部のモノラルマイクを接続し、Lチャンネルのみに記録した音声を左右に振り分けて出力したいときは、［メイン］にしてください。
音声ミックス DV	アフレコしたテープの再生時に、撮影時音声（ST1）とアフレコ音声（ST2）の聞こえる割合を調節できます（77ページ）。 **ご注意** • 音声モードが16ビットで記録されたテープでは、バランス調節できません。 • 電源をはずして５分以上経つと、撮影時の音声（ST1）のみ聞こえる設定に自動的に戻ります。
音声モード DV	**▷12BIT**　12ビット（2つのステレオ音声）で記録するときに選びます。 **16BIT（♪16b）**　16ビット（高音質で1つのステレオ音声）で記録するときに選びます。 **ご注意** • HDV規格のときは、自動的に［16BIT］で記録されます。
風音低減	**▷入**　通常の設定です。 **切**　風の音を低減せず、そのままの音で撮りたいときに選びます。
マイク/ライン入力端子	**▷外部マイク**　マイク/ライン端子につないだマイク（別売り）からの音声を入力するときに選びます。 **ライン**　マイク/ライン端子につないだオーディオ機器（別売り）からの音声を入力するときに選びます。

（パネル/VF設定）メニューを使う—パネル色のこさなど

（パネル/VF設定）メニューでは、「メニュー項目の使いかた」（50ページ）の操作で以下を設定できます。

▷の設定がお買い上げ時の設定です。調整できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。そのとき使える項目が表示されます。使えない項目は暗くなります。



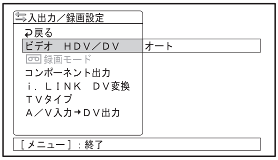
項目	設定
パネル色のこさ	選択/押 決定ダイヤルを回して、液晶画面の濃さを調節できます。録画される画像に影響はありません。 **薄くなる**  **濃くなる**
パネルバックライトレベル	液晶パネルの明るさを調節できます。録画される画像に影響はありません。 **▷ノーマル**　通常の設定（標準の明るさ）です。 **明るい**　画面が暗いと感じたときに選びます。 **ご注意** • コンセントにつないで使うと、設定は自動的に［明るい］になります。
VFバックライト	ファインダーの明るさを調節できます。録画される画像に影響はありません。 **▷ノーマル**　通常の設定（標準の明るさ）です。 **明るい**　ファインダーが暗いと感じたときに選びます。 **ご注意** • コンセントにつないで使うと、設定は自動的に［明るい］になります。

⇆（入出力/録画設定）メニューを使う

— 録画フォーマット・TVタイプなど

⇆（入出力/録画設定）メニューでは、「メニュー項目の使いかた」（50ページ）の操作で以下を設定できます。

▷の設定がお買い上げ時の設定です。設定すると（ ）内のアイコンが表示されます。調整できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。そのとき使える項目が表示されます。使えない項目は暗くなります。



項目	設定
ビデオ HDV/DV	テープを再生するときの信号を選びます。通常は［オート］に設定してください。i.LINK接続時は、i HDV/DV端子から入力/出力する信号を選びます。ここで選択した信号をテープに記録/再生します。 **▷オート**：テープ再生時、自動でHDV/DV規格の信号を切り換えて、再生します。 i.LINK接続時は、自動でHDV/DV規格の信号を切り換えて、i HDV/DV端子から入出力して、記録/再生します。 **HDV**：テープ再生時、HDV規格で記録された部分のみ再生します。 i.LINK接続時は、HDV規格の信号のみをi HDV/DV端子から入出力して、記録/再生します。 また、パソコンなどと接続するときに選びます（74ページ）。 **DV**：テープ再生時、DV規格で記録された部分のみ再生します。 i.LINK接続時は、DV規格の信号のみをi HDV/DV端子から入出力して、記録/再生します。 また、パソコンなどと接続するときに選びます（74ページ）。 **ご注意** • 設定を変える前に、必ずi.LINKケーブルを抜いてください。つないだまま設定を変えると、ビデオ機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。 • ［オート］を選ぶと、HDVとDVの信号が切り換わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。 • ［i.LINK DV変換］が［入］になっているときは、以下の信号が出力されます。 ー［オート］のときは、HDV信号はDVに変換され、DV信号はそのまま出力されます。 ー［HDV］のときは、HDV信号はDVに変換され、DV信号の部分は出力されません。 ー［DV］のときは、DV信号はそのまま出力され、HDV信号の部分は出力されません。

次のページへつづく➡

項目	設定
録画フォーマット	電源スイッチが「カメラ」のときの録画方式を選びます。撮影時には選ばれているフォーマットのランプが点灯します。 **▷HDV1080i**（HDV1080i）HDV規格の1080i方式で撮影するときに選びます。 **DV**（DV） DV規格で撮影するときに選びます。 **ちょっと一言** • 撮影中の画像をi.LINK出力するときは、［i.LINK DV変換］もあわせて設定してください。
録画モードDV	**▷SP**（SP） SP（標準）モードで録画するときに選びます。 **LP**（LP） SPモードの1.5倍の録画時間で長時間録画するときに選びます。ソニー製のMaster（マスター）DVテープを使うと、本機の性能を最大限に生かせます。 **ご注意** • LPモードで撮影したテープにはアフレコできません。 • LPモードで本機で録画したテープを他機で再生すると、モザイク状のノイズが現れたり、音声が途切れたりすることがあります。 • テープの途中でSP/LPモードを切り換えると、画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。
コンポーネント出力	**D1** D1端子があるテレビとつなぐときに選びます。 **▷D3** D3端子があるテレビとつなぐときに選びます。
i.LINK DV変換	電源スイッチが「カメラ」のときは、［録画フォーマット］が［HDV1080i］のときに有効です。 電源スイッチが「ビデオ」のときは、［ビデオ HDV/DV］が［オート］か［HDV］のときに有効です。 **▷切** ［録画フォーマット］と［ビデオ HDV/DV］の設定に従って、iHDV/DV端子から信号を出力します。 **入** iHDV/DV端子から出力される信号は、常にDVになります。 **ご注意** • i.LINK入力については、［ビデオ HDV/DV］を参照してください。 • 設定を変える前に、必ずi.LINKケーブルを抜いてください。つないだまま設定を変えると、ビデオ機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。

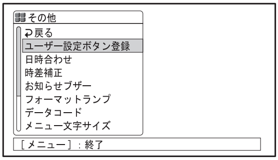
項目	設定
TVタイプ	テレビで見るときに、使用するテレビにあわせて信号の変換が必要です。 **▷16:9**　ワイドテレビで再生するときに選びます。 HDVテープを再生したとき  DVテープを再生したとき  **4:3**　4:3テレビで再生するときに選びます。 HDVテープを再生したとき  DVテープを再生したとき  **ちょっと一言** • ［DV ワイド記録］を［入］にしてDV規格で撮影したテープを4:3テレビで見ると、接続するテレビによっては、画像の天地はそのままで、水平方向を圧縮して再生します。そのような4:3テレビで見るときは、［DV ワイド記録］を［切］にして撮影してください。
A/V入力→DV出力DV	デジタル機器とアナログ機器の間に本機をつなぎ、本機でデジタルとアナログの信号を変換できます。 **▷切**　デジタル変換機能を使わないときに選びます。 **入（A/V▸DV）**　ビデオなどのアナログ信号を、本機を通してパソコンなどデジタル機器にダビングするときに選びます（デジタル変換機能）(79ページ)。

（その他）メニューを使う

— 日時あわせ・時差補正など

（その他）メニューでは、「メニュー項目の使いかた」（50ページ）の操作で以下を設定できます。

▷の設定がお買い上げ時の設定です。設定すると（ ）内のアイコンが表示されます。調整できる項目は、電源スイッチの位置ごとに異なります。そのとき使える項目が表示されます。使えない項目は暗くなります。

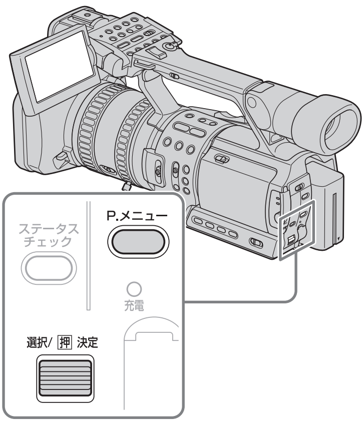


項目	設定	
ユーザー設定ボタン登録	ユーザー設定ボタンに機能を割り当てるときに選びます。詳しくは66ページをご覧ください。	
日時あわせ	日付・時刻を合わせます（17ページ）。	
時差補正	本機を海外で使うときなど、時差の設定をします。選択/押 決定ダイヤルを回して時差を設定すると、時刻も時差に合わせて変わります。時差を0に設定すると、補正前の時刻に戻ります。	
おしらせブザー	**▷メロディ**	撮影スタート/ストップ時や誤った操作をした場合にメロディーで知らせるときに選びます。
	ノーマル	メロディーの代わりにブザーで知らせるときに選びます。
	切	メロディーとブザー音を出さないときに選びます。
録画ランプ	**▷入**	本体前面/後面の録画ランプが撮影中に点灯します。
	切	以下のときに選びます。本体前面/後面の録画ランプが撮影中に点灯しません。 ー被写体に撮影していることを意識させたくないとき ー被写体に接近して撮影するとき ー録画ランプの赤色が被写体に反射してしまうとき
フォーマットランプ	**▷入**	フォーマットランプが点灯します。 電源スイッチが「カメラ」のときは、メニューの［録画フォーマット］で選んだ規格のランプが点灯します。 電源スイッチが「ビデオ」のときは、メニューの［ビデオ HDV/DV］で選んだ規格のランプが点灯します。
	切	フォーマットランプが点灯しません。また、i.LINKランプも点灯しません。
	ご注意 • メニューの［ビデオ HDV/DV］を［オート］に設定しているときは、再生または他機から入力している信号にあわせてフォーマットランプが点灯します。	

項目	設定	
アイリスダイヤル操作方向	アイリスダイヤルの回転方向を選びます。	
	▷ノーマル	レンズ側から見てアイリスダイヤルを時計回りに回すと、絞りが締まり光量が減ります。
	逆方向	レンズ側から見てアイリスダイヤルを反時計回りに回すと、絞りが締まり光量が減ります。
データコード	データコードボタンを押したときに表示される項目を選びます（43ページ）。	
	▷日付/カメラデータ	日付・時刻またはカメラデータを表示するときに選びます。
	日付データ	日付・時刻を表示するときに選びます。
メニュー文字サイズ	**▷ノーマル**	通常の大きさでメニューを表示するときに選びます。
	2×	選択されたメニュー項目を縦2倍角で表示するときに選びます。
残量表示	**▷オート**	次のときにテープ残量を約8秒間表示するときに選びます。 ーカセットが入った状態で電源スイッチを「ビデオ」か「カメラ」にして、テープ残量が確定したとき ー►再生ボタンまたは画面表示/バッテリーインフォボタンを押したとき
	入	テープ残量を常に表示するときに選びます。
画面表示出力	**▷パネル**	タイムコードなどの画面表示を液晶画面とファインダーに出すときに選びます。
	ビデオ出力／パネル	つないだテレビの画面にも画面表示を出すときに選びます。
	ご注意 • ［ビデオ出力/パネル］のとき、画面表示/バッテリーインフォボタンを押すと、外部入力ができなくなります。	
リモコン	**▷入**	付属のワイヤレスリモコンを使うときに選びます。
	切	リモコンを使わないときに選びます。他機のリモコンによる誤動作を防ぎます。
	ご注意 • 電源をはずしてから５分以上経つと、自動的に［入］に戻ります。	

パーソナルメニューを使う

パーソナルメニューを使って設定できる項目は電源スイッチの位置ごとに異なります。選択できない項目は暗くなります。
よく使用するメニュー項目をパーソナルメニューに追加することもできます。また、追加した項目を並べ替えるなど、ご自分の使いやすいパーソナルメニューにできます（カスタマイズ）。電源スイッチの位置ごとにカスタマイズできます。



1　P. メニューボタンを押す。

2　選択/押 決定ボタンを回して希望の項目を選び、押して決定する。

3　選択/押 決定ボタンを回して希望の設定にし、押して決定する。

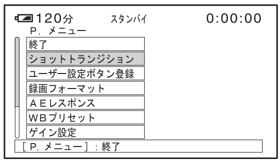
選べる項目を追加する―追加

よく使用するメニュー設定項目をパーソナルメニューへ追加しておくと、次回からP. メニューボタンを押すだけで操作画面に入れます。

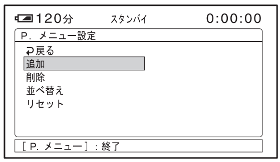
ご注意

- 電源スイッチの位置ごとに、最大28項目まで登録できます。登録数がいっぱいのときは、不要な項目を削除してから追加してください（63ページ）。

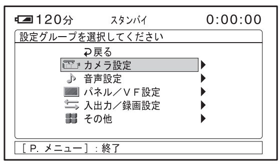
1　P. メニューボタンを押す。



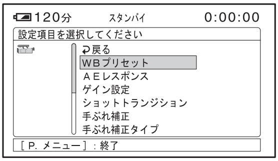
2　選択/押 決定ダイヤルを回して［P. メニュー設定］を選び、押して決定する。



3　選択/押 決定ダイヤルを回して［追加］を選び、押して決定する。

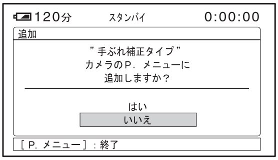


4 **選択/押 決定ダイヤルを回してメニューのマークを選び、押して決定する。**



5 **選択/押 決定ダイヤルを回して追加する項目を選び、押して決定する。**

表示される設定は、電源スイッチの位置ごとに異なります。選択できないときは表示されません。



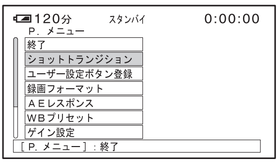
6 **選択/押 決定ダイヤルを回して［はい］を選び、押して決定する。**

項目がパーソナルメニューの最後に追加されます。

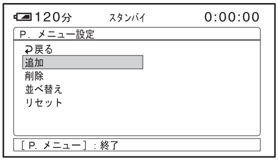
7 **P. メニューボタンを押す。**

不要な項目を削除する―削除

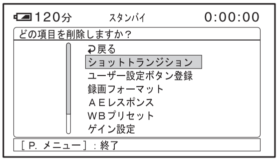
1 **P. メニューボタンを押す。**



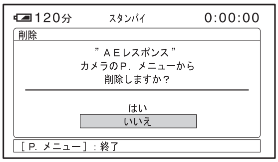
2 **選択/押 決定ダイヤルを回して［P. メニュー設定］を選び、押して決定する。**



3 **選択/押 決定ダイヤルを回して［削除］を選び、押して決定する。**



4 **選択/押 決定ダイヤルを回して削除する項目を選び、押して決定する。**



5 **選択/押 決定ダイヤルを回して［はい］を選び、押して決定する。**

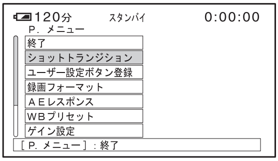
項目がパーソナルメニューから消えます。

6 **P. メニューボタンを押す。**

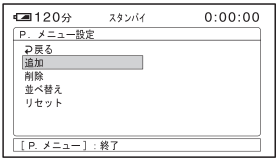
パーソナルメニューの表示位置を替える―並べ替え

たくさんの項目をパーソナルメニューに追加しているとき、よく使う項目順に並べ替えると便利です。

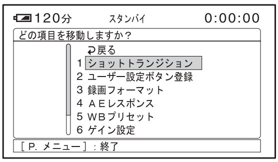
1 P. メニューボタンを押す。



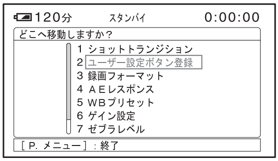
2 選択/押 決定ダイヤルを回して［P. メニュー設定］を選び、押して決定する。



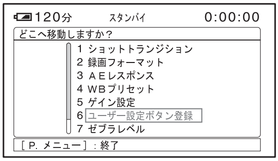
3 選択/押 決定ダイヤルを回して［並べ替え］を選び、押して決定する。



4 選択/押 決定ダイヤルを回して移動する項目を選び、押して決定する。



5 選択/押 決定ダイヤルを回して、項目を移動する。



6 選択/押 決定ダイヤルを押して決定する。

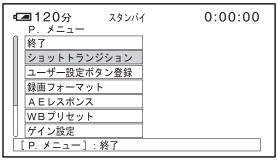
つづけて並べ替えるときは手順4～6を行います。

7 P. メニューボタンを押す。

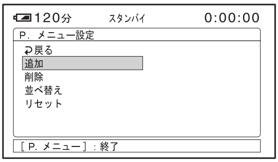
お買い上げ時の設定に戻す —リセット

パーソナルメニューの項目を追加・削除した後でも、お買い上げ時のパーソナルメニューに戻せます。

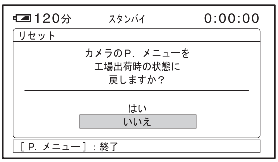
1 **P. メニューボタンを押す。**



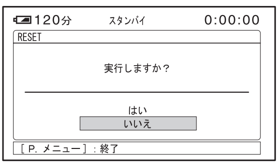
2 **選択/押 決定ダイヤルを回して［P. メニュー設定］を選び、押して決定する。**



3 **選択/押 決定ダイヤルを回して［リセット］を選び、押して決定する。**



4 **選択/押 決定ダイヤルを回して［はい］を選び、押して決定する。**



5 **選択/押 決定ダイヤルを回して［はい］を選び、押して決定する。**

お買い上げ時の設定に戻ります。
リセットを中止するときは、［いいえ］を選んでください。

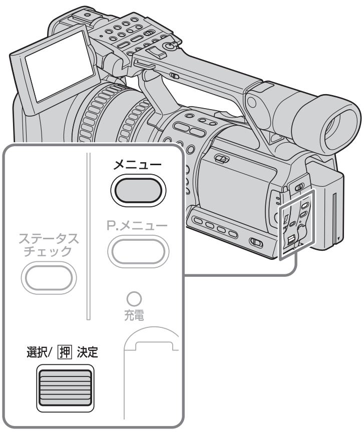
6 **P. メニューボタンを押す。**

ユーザー設定機能を使う

機能によっては、ユーザー設定ボタンに割り当てて操作するものがあります。ユーザー設定ボタン1/2/3に1つずつ割り当てられます。

割り当てられる機能

- フェーダー（37ページ）
- 手ぶれ補正
- インデックス打込み（38ページ）
- アフレコ（76ページ）DV
- 画面表示（43ページ）
- カラーバー（21ページ）



1 メニューボタンを押す。

2 選択/押 決定ダイヤルを回して（その他）メニューを選び、押して決定する。

3 選択/押 決定ダイヤルを回して［ユーザー設定ボタン登録］を選び、押して決定する。

4 選択/押 決定ダイヤルを回して設定したい番号（ユーザー設定-1、2、3）を選び、押して決定する。

番号は、ユーザー設定ボタンの番号です。

機能が割り当てられていないボタンには、［------］が表示されます。

5 選択/押 決定ダイヤルを回して割り当てる機能を選び、押して決定する。

6 選択/押 決定ダイヤルを回して［決定］を選び、押して決定する。

7 メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

ちょっと一言

- 「手ぶれ補正」を割り当てたユーザー設定ボタンを押すと、手ぶれ補正が解除されます（ が表示されます）。（カメラ設定）メニューの［手ぶれ補正タイプ］で、手ぶれ補正の効果を選ぶことができます（53ページ）。
- 画面表示とカラーバーはそれぞれボタンがありますが、ユーザー設定ボタンに割り当てることもできます。この場合、両方のボタンを使えます。

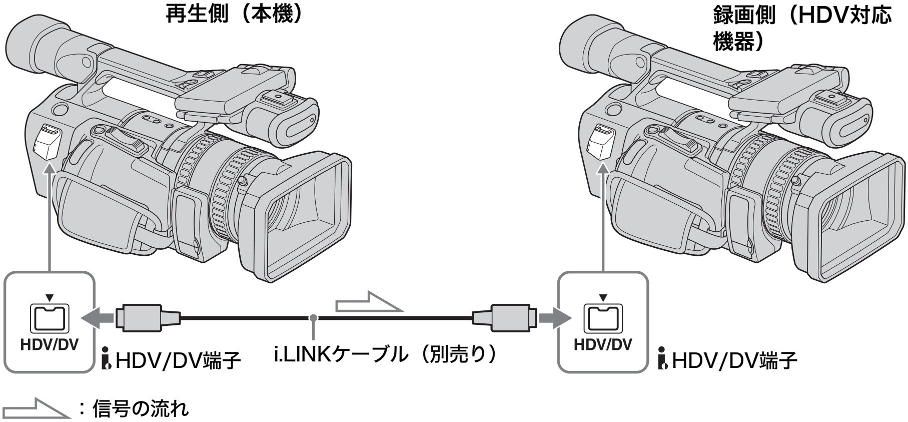
他のビデオへダビングする

本機の画像を他のビデオへダビングできます。
図のように本機を録画機につなぎます。

接続する

◆HDV対応機器へダビングする

本機とHDV対応のビデオ機器をi.LINKケーブル（別売り）でつなぎます。



ダビングを始める前に

（入出力/録画設定）メニューの［ビデオ HDV/DV］（57ページ）と［i.LINK DV変換］（58ページ）の設定によってダビングする録画フォーマットが異なります。設定を変える前に、i.LINKケーブルを抜いてください。

- ［ビデオ HDV/DV］を［オート］にして、［i.LINK DV変換］を［切］にすると、HDVで記録した部分はHDVで、DVで記録した部分はDVでダビングします。
- ［ビデオ HDV/DV］を［オート］にして、［i.LINK DV変換］を［入］にすると、HDVで記録した部分も含め、すべてDVでダビングします。
- ［ビデオ HDV/DV］を［HDV］または［DV］にすると、選んだ規格で記録された部分のみダビングします。それ以外は無記録部分としてダビングします（画像、音声は記録されません）。

ご注意

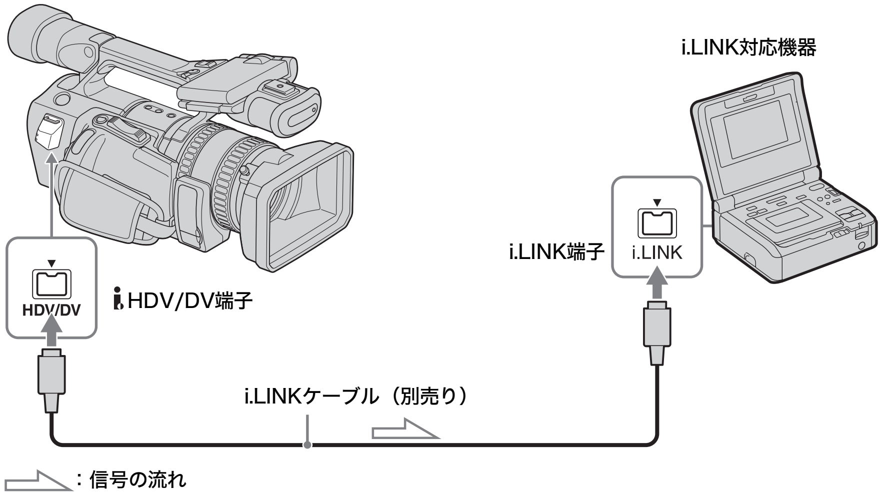
- ［ビデオ HDV/DV］と［i.LINK DV変換］の設定を変えるときにi.LINKケーブルがつながっていると、ビデオ機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。
- ［ビデオ HDV/DV］が［オート］のときは、HDVとDVの信号が切り換わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。
- 録画側にHDR-FX1を使用する場合は、（入出力/録画設定）メニューで［ビデオ HDV/DV］を［オート］にしてください。71ページもあわせてご覧ください。

次のページへつづく➡

- 再生側と録画側の両方にHDR-FX1を使用して、i.LINKケーブルで接続したときは、録画を一時停止または停止したあとで再開すると、スムーズにつながりません。

◆DV機器へダビングする

本機と録画機をi.LINKケーブル（別売り）でつなぎます。



ダビングを始める前に

（入出力/録画設定）メニューの［ビデオ HDV/DV］（57ページ）と［i.LINK DV変換］（58ページ）の設定によってダビングする録画フォーマットが異なります。設定を変える前に、i.LINKケーブルを抜いてください。

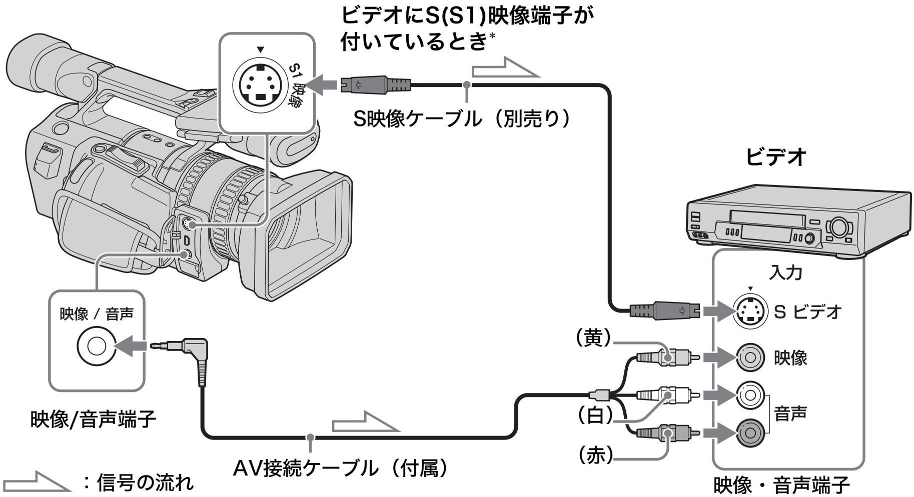
- ［ビデオ HDV/DV］を［オート］にして、［i.LINK DV変換］を［入］にすると、HDVで記録した部分も含め、すべてDVでダビングします。
- HDVとDV規格が混在したテープのDV部分のみをダビングしたいときは、［ビデオ HDV/DV］を［DV］に設定してください。このとき、HDV規格で記録された部分は無記録部分としてダビングします（画像、音声は記録されません）。

ご注意

- ［ビデオ HDV/DV］と［i.LINK DV変換］の設定を変えるときにi.LINKケーブルがつながっていると、ビデオ機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。
- ［ビデオ HDV/DV］を［オート］にしていても、［i.LINK DV変換］が［切］になっていると、HDVで記録した部分は無記録部分としてダビングします（画像、音声は記録されません）。
- ［ビデオ HDV/DV］を［HDV］にすると、相手側のDV機器は、画像を認識することができません（無記録状態になります）。
- ［ビデオ HDV/DV］が［オート］のときは、HDVとDVの信号が切り換わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。

◆AV機器へダビングする

本機と録画機をAV接続ケーブル（付属）でつなぎます。



* S(S1)映像端子が付いている機器には、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）の代わりにS映像ケーブル（別売り）で本機のS1映像端子とビデオのS(S1)映像端子を接続することをおすすめします。画像をより忠実に再現できます。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。S映像ケーブルのみをつないだ場合、音声は出力されません。

ご注意

- （その他）メニューで［画面表示出力］を［パネル］（お買い上げ時の設定）にしてください(61ページ)。
- 他機がモノラル （ひとつの音声入力）の場合は、AV接続ケーブルの黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ（左音声）または赤いプラグ（右音声）のどちらかを音声入力へつなぎます。

ちょっと一言

- 日付などのデータコードをダビングしたいときは、データコードを表示させてください（43ページ)。

ダビングする

1 本機と相手機器をつなぐ（67ページ）。

2 相手機器の準備をする。

- 録画用カセットを入れる。
- 入力切り換えスイッチがある場合は「入力」にする。

3 本機の準備をする。

- 撮影済みのカセットを入れる。
- 電源スイッチを「ビデオ」にする。

4 本機で再生を始め、相手機器で録画する。

詳しくは、相手機器の取扱説明書をご覧ください。

5 ダビングが終わったら、相手機器の録画を停止し、本機の再生を停止する。

ご注意

- i.LINKケーブル接続時は、再生一時停止中の画像を録画すると、画像が粗くなることがあります。
- HDV規格の場合は、再生一時停止中の画像や変速再生している画像はi HDV/DV端子から出力されません。
- i.LINKケーブル接続時は、映像または音声のみを記録することはできません。

ちょっと一言

- i.LINKランプは、i.LINKケーブル接続時に出力される信号の規格のランプ（HDVまたはDV）が点灯します。
- i.LINKケーブルで接続する場合、デジタル信号でやりとりするので、画質・音質の劣化がほとんどありません。

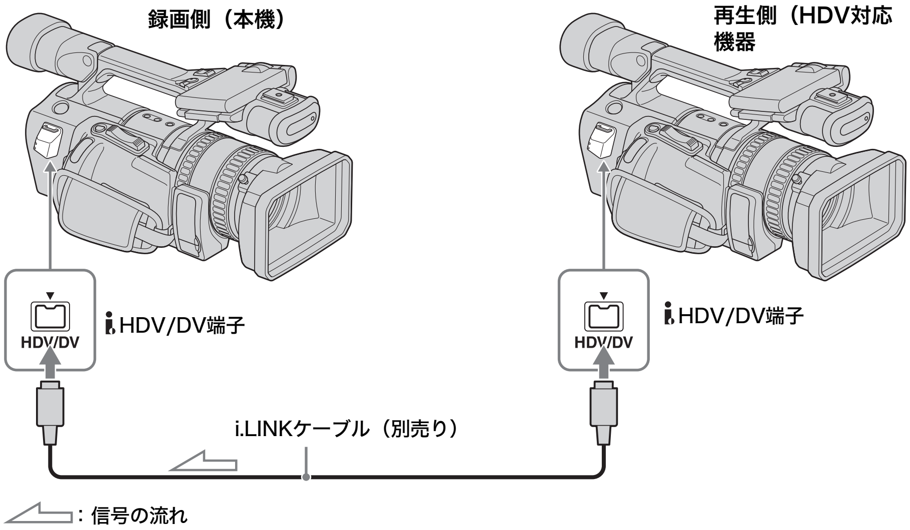
ビデオやテレビから録画する

ビデオの画像やテレビ番組を本機のテープに録画できます。

接続する

◆HDV対応機器から録画する

本機を録画機として使い、HDV対応のビデオの画像を録画・編集できます。
本機（録画側）の（入出力/録画設定）メニューで［ビデオ HDV/DV］（57ページ）を［オート］にしてから、本機とHDV対応のビデオ機器をi.LINKケーブル（別売り）でつなぎます。



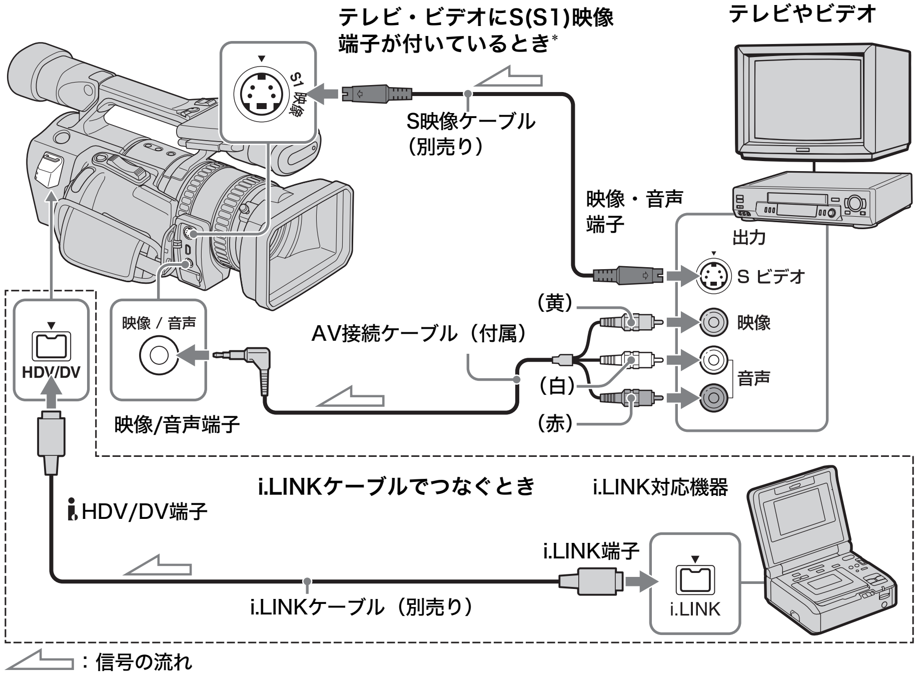
ご注意

- BSデジタル放送などの番組をHDV/DV端子から入力することはできません。

◆DV・AV機器から録画する

本機を録画機として使い、ビデオの画像やテレビ番組を録画・編集できます。
本機と録画機をAV接続ケーブル（付属）でつなぎます。DV対応のビデオ機器はi.LINKケーブル（別売り）でつなぐこともできます。

i.LINKケーブルを使ってDV機器から録画するときは、（入出力/録画設定）メニューで［ビデオ HDV/DV］（57ページ）を［DV］または［オート］にしてから、つないでください。



* S(S1)映像端子が付いている機器には、AV接続ケーブルの黄色いプラグ（映像）の代わりにS映像ケーブル（別売り）で本機のS1映像端子とビデオのS(S1)映像端子を接続することをおすすめします。画像をより忠実に再現できます。DV規格の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。S映像ケーブルのみをつないだ場合、音声は入力されません。

ご注意

- DV・AV機器から画像を録画するとき、HDV規格で録画することはできません。
- AV接続ケーブル（付属）を使ってつなぐときは、（その他）メニューで［画面表示出力］を［パネル］（お買い上げ時の設定）にしてください（61ページ）。
- 他機がモノラル（ひとつの音声出力）の場合は、AV接続ケーブルの黄色いプラグを映像出力へ、白いプラグ（左音声）または赤いプラグ（右音声）のどちらかを音声出力へつなぎます。接続したプラグからの音声のみ記録されます。
- 4:3の映像信号を入力すると、本機の画面には左右が黒く表示されます。

ちょっと一言

- i.LINK端子搭載機器と接続するときは、i.LINKケーブル（別売り）でつなぐことをおすすめします。

録画する

あらかじめ本機に録画用カセットを入れておいてください。

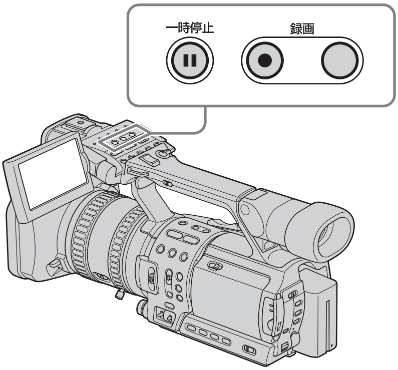
1 **テレビやビデオを再生機としてつなぐ（71、72ページ）。**

2 **ビデオの場合は、ダビングするカセットを入れる。**

3 **本機の電源スイッチを「ビデオ」にする。**

4 **本機を録画一時停止にする。**

❚❚一時停止ボタンを押したまま、●録画ボタンを2つ同時に押す。



5 **ビデオを再生、またはテレビ番組を受信する。**

再生側の画像が本機の画面に映ります。

6 **録画を開始したい画面でもう一度❚❚一時停止ボタンを押して、録画を始める。**

7 **■停止ボタンを押して、録画を止める。**

ご注意

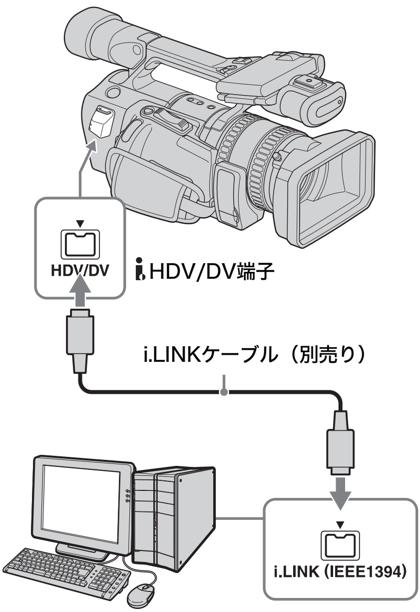
- i.LINKケーブル接続時は、再生一時停止中の画像を録画すると、画像が粗くなることがあります。
- i.LINKケーブル接続時は、映像または音声のみを記録することはできません。
- i.LINKケーブル接続時は、録画を一時停止または停止したあとで再開すると、スムーズにつながりません。

ちょっと一言

- i.LINKランプは、i.LINKケーブル接続時に入力される信号の規格のランプ（HDVまたはDV）が点灯します。
- i.LINKケーブルで接続する場合、デジタル信号でやりとりするので、画質・音質の劣化がほとんどありません。
- i.LINKケーブルでつなぐと、HDV/DVINが表示されます。再生側の画面にも表示されることがありますが、録画はされません。
- 録画を始めると、自動的にインデックス信号がテープに記録されます。また、あらかじめユーザー設定ボタンにインデックス機能を割り当てたボタンを押して、録画中にインデックス信号を打ち込むこともできます。詳しくは38ページをご覧ください。

パソコンと接続する

i.LINKケーブルで本機とパソコンを接続するときは、お手持ちのパソコンにi.LINK端子が装備されていて、ビデオ信号の取り込みができる編集ソフトがインストールされている必要があります。
パソコンの推奨環境については、お使いになるソフトウェアの説明書をご覧ください。



◆パソコン接続時のご注意

- i.LINKケーブルをつなぐとき、端子の向きを確認してつないでください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。
- i.LINKケーブルは、先にパソコンとつないでから、本機とつないでください。先に本機とつなぐと、静電気の発生などにより、本機の故障の原因となります。
- i.LINKケーブルをつなぐ前に、（入出力/録画設定）メニューの［ビデオ HDV/DV］と［i.LINK DV変換］の設定をしてください。接続してから設定すると、パソコンが本機を正しく認識しなかったり、ハングアップしたりすることがあります。

ご注意

- 点灯しているi.LINKランプの規格の信号を扱うことができるパソコンと接続してください。扱えない信号を入出力すると、パソコンが本機を正しく認識しなかったり、ハングアップしたりすることがあります。
- 電源スイッチが「カメラ」のときに、［録画フォーマット］の設定を変えるときは、i.LINKケーブルを抜いてから行ってください。i.LINK接続中に［録画フォーマット］の設定を変えると、パソコンがハングアップすることがあります。

ちょっと一言

- i.LINKケーブル接続時は、入出力信号の規格のランプ（HDVまたはDV）が点灯します。

◆テープの画像をパソコンに取り込むときは

- HDV規格で記録したテープをHDV規格でパソコンに取り込むときは、［ビデオ HDV/DV］を［HDV］に設定して（57ページ）、［i.LINK DV変換］を［切］にしてください（58ページ）。
- DV規格で記録したテープをDV規格でパソコンに取り込むときは、［ビデオ HDV/DV］を［DV］に設定してください（57ページ）。
- HDV規格で記録したテープをDV規格でパソコンに取り込むときは、［ビデオ HDV/DV］を［HDV］に設定して（57ページ）、［i.LINK DV変換］を［入］にしてください（58ページ）。

ご注意

- 使用するパソコンのソフトウェアによっては、正しく働かない場合があります。
- DV規格で記録したテープをHDV規格でパソコンに取り込むことはできません。

◆パソコンから本機に画像を取り込むときは

HDV規格で取り込むとき

- ［ビデオ HDV/DV］を［HDV］にして（57ページ）、［i.LINK DV変換］を［切］にしてください（58ページ）。

DV規格で取り込むとき

- ［ビデオ HDV/DV］を［DV］にしてください（57ページ）。

◆パソコン接続について

詳しくは、下記のホームページ（URL）をご覧ください。

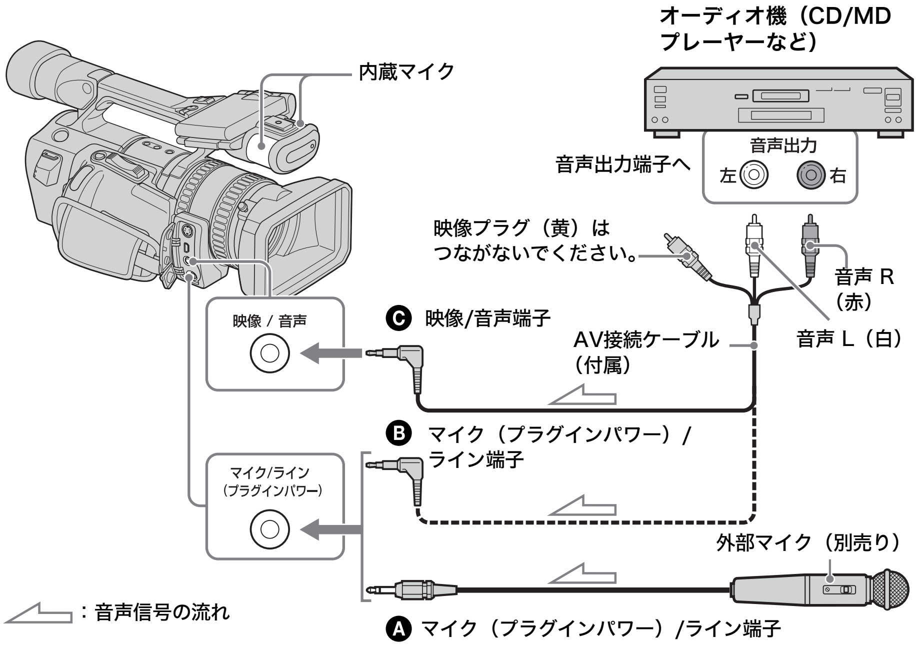
http://www.sony.co.jp/cam/support/

ダビングや編集をする

録画したテープに音声を追加するDV
— アフレコ

DV規格で記録したテープ（音声モードは12bit）にメッセージやちょっとした説明などを、撮影時の音声を消すことなく追加録音（アフレコ）できます。

アフレコ用に接続する



次のいずれかで音声を入力する。

- 内蔵マイクを使う（接続不要）。
- 別売りの外部マイクをマイク/ライン端子につなぐ（A）。
  （音声設定）メニューで ［マイク/ライン入力端子］を［外部マイク］にしてください（55ページ）。
- 別売りのオーディオ機器をマイク/ライン端子につなぐ（B）。
  （音声設定）メニューで［マイク/ライン入力端子］を［ライン］にしてください（55ページ）。
- 映像/音声端子にオーディオ機などをつなぐ（C）。

他機を複数つないでいるとき、追加する音声は、マイク/ライン端子→映像/音声端子→内蔵マイクの順番で優先されます。

ご注意

- 映像/音声端子や内蔵マイクでアフレコするときは、映像/音声端子から映像は出力されません。映像は液晶画面またはファインダーで確認してください。アフレコする音声はヘッドホンで確認してください。
- 次のときはアフレコできません。
  - HDV規格で録画されたテープ
  - 16BITモードで録画されたテープ
  - LPモードで録画されたテープ
  - i.LINKケーブルがつながれている
  - テープの無記録部分
  - カセットが誤消去防止状態
  - 他機で4CHマイクで記録されたテープ
- 別売りの外部マイクを使ってアフレコするときは、AV接続ケーブルでテレビなどとつないで画像と音声を確認できます。アフレコする音声はスピーカーからは出力されません。ヘッドホンかテレビで確認してください。
- マイク/ライン端子にモノラル機器をつないだ場合、L音声に入力されます。

アフレコする

あらかじめ、ユーザー設定ボタンにアフレコを割り当ててください。ユーザー設定の割り当てかたについては、66ページをご覧ください。

1 本機に録画したカセットを入れる。

2 電源スイッチを「ビデオ」にする。

3 ►再生ボタンを押して、テープを再生する。

4 アフレコする開始点で、❚❚一時停止ボタンを押す。

一時停止します。

5 アフレコ機能を割り当てたユーザー設定ボタンを押す。

画面上に⊖❚❚マークが表示されます。

4 選択/㊞ 決定ダイヤルを回して

6 ❚❚一時停止ボタンを押すと同時に、オーディオ機器やマイクで、追加する音声を出す。

アフレコ中は、画面上に⊖マークが表示されます。

画像を再生しながら、音声をステレオ2に追加して記録します。

7 止めたいところで■停止ボタンを押す。

◆アフレコする終了点を決めるには

あらかじめ、再生中にアフレコを終了する場面で、ゼロセットメモリーボタンを押しておきます。その後、手順4〜6を行うと、終了する場面で自動的に録音が止まります。

ご注意

- 本機で録画したテープにアフレコしてください。他のビデオ（本機以外のHDR-FX1を含む）で録画したテープでアフレコすると音質が劣化することがあります。

ちょっと一言

- 次の方法でアフレコするとき、アフレコ音の録音レベルを手動調節できます。
  - マイク/ライン端子から、別売りの外部マイクやオーディオ機器でアフレコする
  - 映像/音声端子からアフレコする
  - 内蔵マイクでアフレコする

アフレコした音声を確認する

1 アフレコしたテープを再生する（77ページ）。

2 メニューボタンを押す。

3 選択/㊞ 決定ダイヤルを回して♪（音声設定）メニューを選び、押して決定する。

［音声ミックス］を選び、押して決定する。

次のページへつづく➡

ダビングや編集をする

5 選択/押 決定ダイヤルを回して撮影時の音声（ST1:ステレオ1）とアフレコした音声（ST2:ステレオ2）の音声バランスを調整し、押して決定する。

お買い上げ時は、ステレオ1の音のみが出る設定になっています。
調整したバランスは、電源をはずして5分以上経つと、お買い上げ時の設定に戻ります。

6 メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

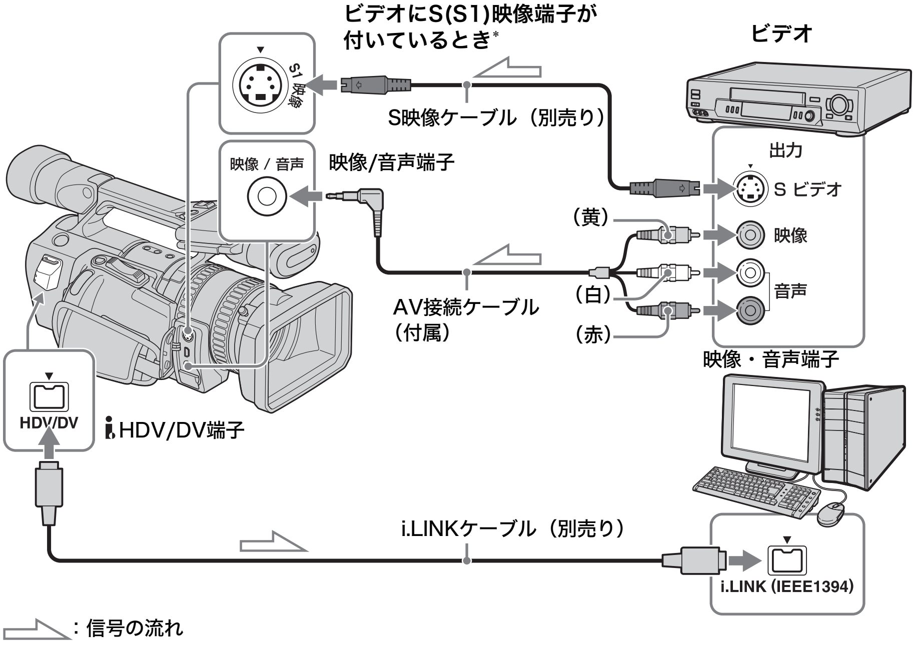
本機を経由してビデオをパソコンにつなぐ

DV—デジタル変換機能

AV接続ケーブル（付属）とi.LINKケーブル（別売り）を使って、本機にアナログ機器とパソコンをつなぎます。ビデオなどのアナログ信号を本機でデジタル信号に変換して、パソコンなどのデジタル機器にダビングできます。
デジタル変換機能を使うには、ビデオ信号の取り込みができるソフトウェアがパソコンにインストールされている必要があります。

接続する

接続できるパソコンの推奨環境については、ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。



ご注意

- （その他）メニューで［画面表示出力］を［パネル］（お買い上げ時の設定）にしてください（61ページ）。
- i.LINKケーブルをつなぐ前に、（入出力/録画設定）メニューで［ビデオ HDV/DV］を［DV］にしてください（57ページ）。つないだまま設定を変えると、パソコンがハングアップしたり、本機を正しく認識しないことがあります。

画像を取り込む

1 アナログ機器の電源を入れる。

2 電源スイッチを「ビデオ」にする。

電源は別売りのACアダプター /チャージャーをお使いください。

3 メニューボタンを押す。

4 選択/㊉決定ダイヤルを回して ⇆ (入出力/録画設定)メニューを選び、押して決定する。

5 選択/㊉決定ダイヤルを回して [A/V入力→DV出力]を選び、押して決定する。

6 選択/㊉決定ダイヤルを回して [入]を選び、押して決定する。

7 メニューボタンを押して、メニュー画面を消す。

8 アナログ機器で再生を始める。

9 パソコンで取り込みを始める。

操作について詳しくはソフトウェアに付属の説明書、またはオンラインヘルプをご覧ください。

◆画像と音声を取り込んだあとは

パソコンの取り込みを停止し、アナログ機器の再生を停止する。

ご注意

- 本機に入力される映像信号の状態によっては、本機から正しく画像を出力できないことがあります。
- 著作権保護の信号が記録されているソフトウェアの画像は、本機を経由して出力しても、パソコンへ取り込めません。
- アナログ入力した信号を、コンポーネントビデオ端子から出力することはできません。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、テクニカルインフォメーションセンター（裏表紙）にお問い合わせください。
また、液晶画面やファインダーに「C:□□:□□」（□は数字）のように表示されたときは、自己診断表示機能が働いています。87ページをご覧ください。

全体操作について

症状	原因と対処のしかた
電源スイッチを「カメラ」または「ビデオ」にしても動作しない。	• バッテリーの消耗または消耗間近、未装着。 ➔充電されたバッテリーを取り付ける（11ページ）。 ➔ACアダプター /チャージャーのプラグをコンセントに差し込む（14ページ）。 • ACアダプター /チャージャーのモード切換スイッチが「充電」になっている。 ➔「ビデオ/カメラ」にする（14ページ）。
電源が入っているのに操作できない。	➔電源（バッテリーまたはACアダプター /チャージャーの電源コード）を取り外し、約1分後に電源を取り付け直す。それでも操作できないときは、リセットボタンを先のとがったもので押す。リセットボタンを押すと、日時を含めすべての設定が解除されます。ただし、パーソナルメニューやピクチャープロファイルで設定した内容は解除されません。
電源スイッチを「ビデオ」または「切（充電）」にして本機を動かすと、本体内部で「カタカタ」という音がする。	• 本機のレンズ機能の一部にリニア機構を採用しているためで、故障ではありません。
付属のワイヤレスリモコンが働かない。	➔（その他）メニューで［リモコン］を［入］にする（61ページ）。 ➔リモコンの乾電池の＋極と－極を正しく入れる。それでも働かないときは、乾電池の寿命のため。新しい乾電池に交換する（105ページ）。 ➔リモコンと本体リモコン受光部の間にある障害物を取り除く。
本体があたたかくなる。	• 長時間電源を入れたままにしておいたためで、故障ではありません。

バッテリー・電源について

症状	原因と対処のしかた
本体に取り付けたバッテリーを充電中、充電ランプが点灯していない。	• ACアダプター /チャージャーのモード切換スイッチが「充電」になっている。 ➔「ビデオ/カメラ」側にする（14ページ）。 ➔バッテリーを正しく取り付け直す。それでも点灯しないときは、コンセントから電源が供給されていない（14ページ）。 • すでに充電が完了している。
本体に取り付けたバッテリーを充電中に充電ランプが点滅する。	➔バッテリーを正しく取り付け直す（14ページ）。それでも点滅するときは、バッテリーが故障しているおそれがあるので、コンセントからプラグを抜きテクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。
本体に取り付けたバッテリーが充電できない。	➔本体の電源スイッチを「切（充電）」にする。
バッテリーの消耗が早い。	• 周囲の温度が極端に低い、または充電が不充分です。故障ではありません。 ➔満充電し直す。それでも消耗が早いときはバッテリーの寿命なので、新しいバッテリーに交換する（11、93ページ）。
バッテリー残量が正しく表示しない。	• 温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している、または充電が不充分です。故障ではありません。 ➔満充電し直す。それでも正しく表示されないときはバッテリーの寿命なので、新しいバッテリーに交換する（11、93ページ）。
バッテリー残量が充分あるのに電源がすぐ切れる。	• 残量表示にズレが生じている、または充電が不充分です。 ➔満充電し直すと残量が正しく表示される（11ページ）。
ACアダプター /チャージャーを使用中、本機に不具合が生じる。	➔電源を切り、コンセントからプラグを抜いてから、もう一度電源をつなぐ。

カセットについて

症状	原因と対処のしかた
カセットが取り出せない。	➔電源（バッテリーやACアダプター /チャージャー）が正しく接続されているか確認する（11、14ページ）。 ➔バッテリーをはずして、もう一度取り付ける（11ページ）。 ➔充電されたバッテリーを取り付ける（11ページ）。

症状	原因と対処のしかた
カセットカバーを開けてもテープが出てこない。	• 本機が結露しかけている（96ページ）。
カセットメモリー付きカセットで、カセットメモリー表示やタイトル表示が出ない。	• 本機はカセットメモリーに対応していないため、表示されません。
テープ残量表示が出ない。	→常に表示したいときは、（その他）メニューで［残量表示］を［入］にする（61ページ）。

液晶画面・ファインダーについて

症状	原因と対処のしかた
見慣れない表示が出る。	→106ページをご覧ください。
ファインダーの画像がはっきりしない。	→視度調整つまみを動かして、画像がはっきり見えるようにする（16ページ）。
ファインダーの画像が消えている。	→液晶画面を閉じる。開いているとファインダーには画像は映りません（16ページ）。

撮影について

症状	原因と対処のしかた
録画スタート/ストップボタンを押しても、テープが走行しない。	→電源スイッチを「カメラ」にする（15ページ）。 →テープが最後まで行っている。巻き戻すか、新しいカセットを入れる。 →カセットの誤消去防止ツマミをRECにする（92ページ）。または新しいカセットを入れる。 →結露でテープがヘッドドラムに貼り付いている。カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直す（96ページ）。
ハンドル部の録画スタート/ストップボタンを押しても、テープが走行しない。	→ホールドレバーを解除する（21ページ）。
電源が途中で切れる。	→バッテリーを充電する（11ページ）。
ズームが働かない。	→ズームスイッチの位置を確認する（22ページ）。 →リモコンでズームするときは、ズームスイッチを「レバー/リモート」にする（23ページ）。
ハンドルズームが働かない。	→ハンドルズーム切換スイッチを「H」または 「L」にする（22ページ）。

次のページへつづく→

症状	原因と対処のしかた
ズーム/ショットトランジション操作中に、動作が途中で止まる。	• ズーム/ショットトランジション操作中に、カセットを出し入れしたときに起こる症状です。
手ぶれ補正が働かない。	→手ぶれ補正を割り当てたユーザー設定ボタンを押す（66ページ）。 →（カメラ設定）メニューで［手ぶれ補正］を［入］にする（52ページ）。
オートフォーカスが働かない。	→フォーカススイッチを「自動」にして、オートフォーカスにする（31ページ）。 →オートフォーカスが働きにくい状況のときは、手動でピントを合わせる（31ページ）。
ろうそくの火やライトなどを暗い背景の中で撮ると、縦に帯状の線が出る。	• 背景とのコントラストが強い被写体のときに出る現象で、故障ではありません。
明るい被写体を映すと、縦に尾を引いたような画像になる。	• スミア現象と呼ばれるもので、故障ではありません。
画面に白点が出ることがある。	• シャッタースピードを遅くしたときに出る現象で、故障ではありません。
画面に斜めのしま模様が出る。	→ゼブラ/ピーキングスイッチを「切」にする（30ページ）。
画面が白すぎて画像が見えない。	→逆光補正を解除する（24ページ）。

再生について

症状	原因と対処のしかた
再生できない。	→テープが最後まで行っているときは巻き戻す（41ページ）。
逆方向に変速再生ができない。	→HDV規格で記録したテープではできません。
画像に横線が入る、画像がぼけたり、映らなかったりする。	→ビデオヘッドが汚れているため。クリーニングカセットできれいにする（97ページ）。
細かい模様がちらつく、斜めの線がギザギザになる。	→ピクチャープロファイルで［シャープネス］を－側（やわらかな画像）に調整して撮影する（33ページ）。
音声が小さい。または聞こえない。	→（音声設定）メニューで［バイリンガル］を［切］にする（55ページ）。 →音量を大きくする（41ページ）。 →（音声設定）メニューで［音声ミックス］を、［ST2］側（アフレコ音声）から最適な音声になるまで調節する（55ページ）。 • Ｓ映像ケーブルまたはD端子コンポーネントビデオケーブルだけでつないでいる。 →AV接続ケーブルの白と赤のプラグもあわせてつなぐ（45、46ページ）。
音声が途切れる。	→ビデオヘッドが汚れているため。クリーニングカセットできれいにする（97ページ）。
日付サーチやインデックスサーチができない。	• テープの始めや途中に無記録部分があるためで、故障ではありません。
［-- -- --］が表示される。	• 日付・時刻を設定しないで録画したテープを再生している。 • テープの無記録部分を再生している。 • テープに傷やノイズがあると、データコードを読めません。
エンドサーチが働かない。	• 電源スイッチが「カメラ」になっている。 • 撮影後にカセットを取り出したため（43ページ）。 • カセットを入れてからエンドサーチするまでに、１度も撮影していない。
エンドサーチが誤動作する。	• テープの始めや途中に無記録部分があるためで、故障ではありません。
エンドサーチ、レックレビューのときに画像が出ない。	• 同じテープにHDV規格とDV規格の撮影を混在させたときに起こる症状で、故障ではありません。
テレビにつないで再生するとき、i.LINKを正しく接続しているのに画像や音声がでない。	• テレビがHDV/DVに対応していない場合は、テレビで見ることができません。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

次のページへつづく➡

症状	原因と対処のしかた
テレビにつないで再生すると き、D端子コンポーネントビデオケーブルを正しく接続しているのに画像や音声が出ない。	➔接続する機器に合わせて（入出力/録画設定）メニューの［コンポーネント出力］を正しく設定する（58ページ）。 • コンポーネントビデオ端子から音声は出力されません。 ➔AV接続ケーブルの白と赤のプラグもあわせてつなぐ（45、46ページ）。
4:3テレビにつないで再生したら、画像がつぶれて見える。	• ワイドで撮影したテープを4:3テレビで見るときに起こる現象です。 ➔（入出力/録画設定）メニューの［TVタイプ］を設定して再生する（59ページ）。 ➔DV規格で撮影するときは、あらかじめ（カメラ設定）メニューの［DV ワイド記録］を［切］にして撮影する（39ページ）。
画像が乱れ、画面上にPALまたは50iが表示される。	• 本機で再生できないカラーテレビ方式で録画された画像のため（91ページ）。故障ではありません。
画面上に♪4ch-12bが表示される。	• 他機で4CHマイク記録されたテープを再生しているときに表示されます。本機は4CHマイク記録には対応していません。

ダビング・アフレコについて

症状	原因と対処のしかた
本機につないだ機器（外部入力）の映像が、液晶画面やファインダーに映らない。	➔（その他）メニューで［画面表示出力］を［パネル］にする（61ページ）。
AV接続ケーブルを使ってダビングができない。DV	➔（その他）メニューで［画面表示出力］を［パネル］にする（61ページ）。
ダビング編集中、i.LINKケーブルを接続しているのに、モニターに画像が出ない。	➔接続する機器に合わせて（入出力/録画設定）メニューの［ビデオ HDV/DV］を正しく設定する（57ページ）。
アフレコした音声が聞こえない。DV	➔（音声設定）メニューで［音声ミックス］を、[ST1]（オリジナルテープ音声）側から最適な音声になるまで調節する（55ページ）。
拡大フォーカスボタンを押したら、突然画像が途切れた。	• DV規格で撮影中の画像を出力しているときに、拡大フォーカスボタンを押すと、通常の画面から拡大フォーカスの画面に切り換わるときに、一時的に画像が途切れます。

警告表示とお知らせメッセージ

自己診断表示・警告表示

液晶画面またはファインダーには、以下のように表示されます。詳しい説明は、（　）内のページをご覧ください。

表示	原因と対処のしかた
C:□□:□□/E:□□:□□ (自己診断表示)	お客様自身で対応できる場合でも、2、3回繰り返しても正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。 **C:04:□□** ➔“インフォリチウム”以外のバッテリーが使われているため。必ず“インフォリチウム”バッテリーを使ってください（93ページ）。 **C:21:□□** ➔結露しているため。カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直す（96ページ）。 **C:22:□□** ➔ビデオヘッドが汚れているため。クリーニングカセットできれいにする（97ページ）。 **C:31:□□/C:32:□□** ➔上記以外の症状になっている。カセットを入れ直し、もう一度操作し直す。ただし、本機が結露気味のときは、この操作をしないでください（96ページ）。 ➔電源をいったん取り外し、取り付け直してからもう一度操作し直す。 ➔テープを交換する。 **E:61:□□/E:62:□□** • お客様自身では正常に戻せない症状です。テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせいただき、Eから始まる数字すべてをお知らせください。
（バッテリー残量に関する警告）	• バッテリー残量が少ない。 • 使用状況や環境、バッテリーパックによっては、バッテリー残量が約5～10分でも警告表示が点滅することがあります。

次のページへつづく➡

表示	原因と対処のしかた
[結露アイコン]（結露の警告）＊	➔カセットを取り出し、電源をはずして、カセット入れを開けたまま、約1時間放置する（96ページ）。
[テープアイコン]（テープ関連の警告）	**遅い点滅** • テープ残量が5分を切った。 • カセットが入っていない。＊ • カセットが誤消去防止状態になっている（92ページ）。＊ **速い点滅** • テープが終わっている。＊
⏏ (テープを取り出す必要がある警告)＊	**遅い点滅** • カセットが誤消去防止状態になっている（92ページ）。 **速い点滅** • 結露している（96ページ）。 • 自己診断表示が表示されている（87ページ）。

＊ 警告表示・お知らせメッセージが出るときに、「おしらせブザー」が鳴ります（60ページ）。

お知らせメッセージ一覧

警告表示とともに、以下のお知らせメッセージが表示されます。メッセージに従って操作してください。

項目	表示	原因と対処のしかた
バッテリー	"インフォリチウム"バッテリーを使ってください	➔詳しくは93ページをご覧ください。
	バッテリーを取りかえてください	➔11ページをご覧ください。
	このバッテリーは古くなりました　取りかえてください	➔詳しくは94ページをご覧ください。
	⏏ 電源を取り付けなおしてください	ー
結露	⏏ 結露しています　カセットを取り出してください	➔詳しくは96ページをご覧ください。
	結露しています　約１時間放置してください	➔詳しくは96ページをご覧ください。
カセット・テープ	カセットを入れてください	➔19ページをご覧ください。
	⏏ カセットを入れなおしてください	• テープの損傷などがないか確認する。
	⏏ カセットの誤消去防止ツマミを確認してください	➔92ページをご覧ください。
	テープが終わっています	ー
その他	コピープロテクトされています 記録できません	ー
	アフレコできません “i.LINK”ケーブルをぬいてください	➔77ページをご覧ください。
	SP以外の録画モードで記録されている部分です アフレコできません*	➔77ページをご覧ください。
	12bit以外の音声モードで記録されている部分です アフレコできません*	➔77ページをご覧ください。
	無記録部分です アフレコできません*	➔77ページをご覧ください。
	HDV記録テープです アフレコできません	➔77ページをご覧ください。
	アフレコできません	➔77ページをご覧ください。
	ショットAが登録されていません。	➔Aに設定（ショット）を登録してください（36ページ）。
	ショットBが登録されていません。	➔Bに設定（ショット）を登録してください（36ページ）。
	非対応のフォーマットです。	• 対応していないフォーマットのため、再生できません。

次のページへつづく➡

項目	表示	原因と対処のしかた
その他	この“ビデオ HDV/DV”設定では表示できない信号です。表示するには設定を変更してください。	➔再生や信号入力を停止するか、［ビデオ HDV/DV］設定を変更してください（57ページ）。
	カメラのP. メニューにはすでに登録されています	ー
	ビデオのP. メニューにはすでに登録されています	ー
	ヘッドが汚れています クリーニングカセットを使ってください	➔97ページをご覧ください。

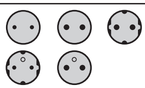
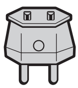
＊ DV規格のみ表示されます。

海外で使う

◆電源について

本機は、海外でも使えます。
別売りのACアダプター /チャージャー AC-VQ850（ACCKIT-D10に付属）は、全世界の電源（AC100V～240V・50/60Hz）で使えます。
また、バッテリーも充電できます。ただし、電源コンセントの形状の異なる国や地域では、電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
電子式変圧器（トラベルコンバーター）は使わないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	 主に北米	 主にヨーロッパなど
使用する変換プラグアダプター	不要です。	

◆カラーテレビ方式について DV

DV規格で記録した再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式（NTSC、表参照）で、映像・音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）と接続ケーブルが必要です。

テレビ方式	対象
NTSC	アメリカ合衆国、エクアドル、エルサルバドル、ガイアナ、カナダ、キューバ、グアテマラ、グアム、コスタリカ、コロンビア、サモア、スリナム、セントルシア、大韓民国、台湾、チリ、ドミニカ、トリニダード・トバゴ、ニカラグア、日本、ハイチ、パナマ、バミューダ、バルバドス、フィリピン、プエルトリコ、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、ホンジュラス、ミクロネシア、ミャンマー、メキシコ など

◆時差補正機能について

海外で使うとき、（その他）メニューの［時差補正］を選ぶと、時差を設定するだけで時刻を現地時間に合わせられます（60ページ）。

HDV規格と記録・再生について

本機は、HDV規格とDV規格の両方の記録機能を搭載したビデオカメラレコーダーです。
本機は、ミニDVカセットのみ使えます。
Mini DV マークが付いたカセットを使ってください。

◆HDV（HDV）規格とは

DVカセットにデジタルハイディフィニション（HD）映像の記録・再生ができるように開発されたビデオ方式です。
本機では、有効走査線数1080本のインターレース方式（1080i、画素数1440×1080ドット）を採用しています。
記録時の映像ビットレートは約25Mbpsです。
デジタルインターフェースにi.LINKを採用し、HDVに対応するテレビやパーソナルコンピューターとのデジタル接続が可能です。

◆再生について

- DV規格とHDV規格の1080i方式の両方を再生できます。
- 本機ではHDV規格の720/30pで記録した画像を再生できますが、i.LINK端子（i HDV/DV端子）から出力することはできません。

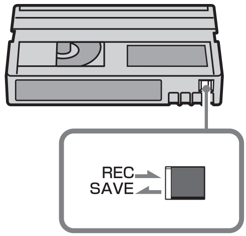
◆著作権保護信号について

再生するとき
本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合には、他機をつないで本機の画像を記録するとき、記録が制限されることがあります。

記録するとき
著作権保護のための信号が記録されている映像音声は本機で記録することはできません。
このような映像音声を記録しようとすると、液晶画面またはファインダーに［コピープロテクトされています 記録できません］が表示されます。なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

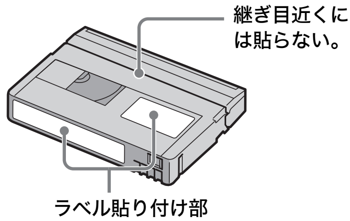
◆カセット取り扱い上のご注意

間違って消さないために
カセットの背にある誤消去防止ツマミをSAVEの矢印のほうへずらします。



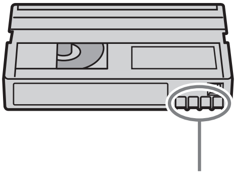
REC：録画できる。
SAVE：録画できない。（誤消去防止状態）

ラベルは指定の位置に
カセットにラベルを貼るときは、指定の位置に正しくお貼りください。指定以外の位置に貼ると故障の原因になります。



カセットの使用後は
ご使用後は必ずテープを巻き戻してください（画像や音声が乱れる原因となります）。巻き戻したテープはケースに入れ、立てて保管してください。

金メッキ端子のお手入れ
カセットの金メッキ端子が汚れたり、ゴミが付着したりすると、テープ残量表示などが正しく表示されないことがあります。
カセットの取り出し回数10回を目安にして、綿棒でカセットの金メッキ端子をクリーニングしてください。



ご注意
- 本機はカセットメモリーに対応していません。

◆HDV対応テレビについてHDV1080i

HDV規格で記録した再生画像を見るには、ハイビジョン対応テレビ（D3端子付き）をおすすめします。
また、i.LINK（HDV）対応のテレビと本機を接続するときは、i.LINKケーブルでつなぐことをおすすめします。（表参照）

i.LINK対応のソニー製テレビの型名
KD-36HR500、KD-32HR500、 KD-28HR500、KD-28HR500B KDE-P61HX2N、KDE-P50HX2N、 KDE-P42HX2N KDE-P61HX2、KDE-P55HX2、 KDE-P50HX2、KDE-P42HX2 KDE-P50HVX、KDE-P42HVX、 KDE-P37HVX、 KDE-P42HV2、KDE-P37HV2、 KDE-P32HV2 KDL-L40HVX、KDL-L32HVX、 KDL-L26HVX KDL-L42HX2、KDL-L32HX2、KDL-L28HX2 KDX-46Q005、KDX-40Q005 など

2004年11月1日現在
最新の情報は裏表紙の「デジタルハンディカムの最新サポート情報」のホームページをご覧ください。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

本機は“インフォリチウム”バッテリー（Lシリーズ）対応です。それ以外のバッテリーは使えません。“インフォリチウム”バッテリー Lシリーズには InfoLITHIUM L マークがついています。

◆InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは？

“インフォリチウム”バッテリーは、本機や別売りのACアダプター /チャージャーとの間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
“インフォリチウム”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。別売りのACアダプター /チャージャーを使うと、使用可能時間や充電終了時間も計算して表示します。

◆充電について

- 本機を使う前には、必ずバッテリーを充電してください。
- 周囲の温度が10～30℃の環境で、充電ランプが消えるまで充電することをおすすめします。これ以外では効率の良い充電ができないことがあります。
- 充電終了後は、DKケーブルを本機のDC IN端子から抜くか、バッテリーを取り外してください。

◆バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が10℃未満になるとバッテリーの性能が低下するため、使える時間が短くなります。安心してより長い時間使うために、バッテリーをポケットなどに入れてあたたかくしておき、撮影の直前に本機に取り付けることをおすすめします。
- 本機で撮影や再生中は、こまめに電源スイッチを切るようにしましょう。撮影スタンバイ状態や再生一時停止中でもバッテリーは消耗しています。
- 撮影には予定撮影時間の2〜3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしましょう。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。

◆バッテリーの残量表示について

- バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、再度満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使ったり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。撮影時間の目安として使ってください。
- バッテリー残量時間が約5〜10分でも、ご使用状況や周囲の温度環境によってはバッテリー残量が残り少なくなったことを警告するマークが点滅することがあります。

◆バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取り外して、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、カセットをいれずに電源が切れるまで撮影スタンバイにしてください。

◆バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。

i.LINK（アイリンク）について

本機のHDV/DV端子はi.LINKに準拠した端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

◆i.LINKとは？

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。
i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。
複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。
ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ご注意

- i.LINKケーブルで本機と接続できる機器は通常1台だけです。複数接続できるHDV/DV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

- i.LINK（アイリンク）はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
- IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

◆i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、以下の3種類があります。

S100（最大転送速度　約100Mbps*）
S200（最大転送速度　約200Mbps）
S400（最大転送速度　約400Mbps）

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。
最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbpsとは？
「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

◆本機でのi.LINK操作は

他のi.LINK端子付きビデオとつないでダビングする方法については67ページをご覧ください。
また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK対応機器（パーソナルコンピューター VAIOシリーズなど）とも接続してご使用になれます。
なお、デジタルテレビ、DVD、MICROMVなどの映像機器には、i.LINK端子を搭載しながらも、本機には対応できない仕様のものがあります。接続の際はあらかじめHDV/DV対応の有無をご確認ください。
接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。

◆必要なi.LINKケーブル

ソニー製のi.LINKケーブルをお使いください。
4ピン←→4ピン（HDV/DVダビング時）

その他

取り扱い上のご注意とお手入れ

◆使用・保管について

使用中、保管中にかかわらず、次のような場所に置かないでください。

- 異常に高温や低温になる場所
  炎天下や熱器具の近く、夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動や強力な磁気のある場所
  故障の原因になります。
- 強力な電波を出す場所や放射線のある場所
  正しく撮影できないことがあります。
- TV、ラジオやチューナーの近く
  雑音が入ることがあります。
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  砂がかかると故障の原因になるほか、修理できなくなることもあります。
- ファインダーや液晶画面、レンズが太陽に向いたままとなる場所（窓際や室外など）
  ファインダー内部や液晶画面を傷めます。

長時間使用しないときは

3分間ほど再生するなどして、ときどき電源を入れてください。

◆結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、レンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、［💧⏏結露しています カセットを取り出してください］または［💧結露しています 約1時間放置してください］と警告表示が出ます。ただし、レンズの結露では表示は出ません。

結露が起きたときは

カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、開く/カセット取出し つまみ以外は働きません。

電源を切ってカセットカバーを開けたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押しても💧や⏏が点滅しなければ使えます。

結露気味のときは、本機が結露を検出できないことがあります。このようなときは、カセットカバーを開けてから約10秒間カセットが出てこないことがありますが、故障ではありません。カセットが出てくるまでカセットカバーを閉めないでください。

結露が起こりやすいのは

以下のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。

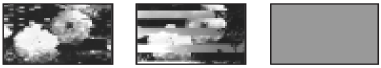
- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立の後
- 温泉など高温多湿の場所

結露を起こりにくくするために

本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

◆ビデオヘッドについて

- ビデオヘッドが汚れると、正常に録画できなかったり、ノイズの多い再生画像になったり、音声が途切れたりします。
- 以下のような症状になったときは、クリーニングカセットを10秒間使ってヘッドをきれいにしておきましょう。
  - 再生画面に次のような四角いノイズが出る、または青1色の画面になる。



  - 再生画面が静止する。
  - 再生画面の一部が動かない。
  - 再生画像が出ない、または音声が途切れる。
  - 録画中に［ヘッドが汚れています クリーニングカセットを使ってください］が表示される。
- ビデオヘッドは長時間使うと摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

◆液晶パネルについて

- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶パネルの故障の原因になります。
- 寒い場所でご使用になると、画像が尾を引いて見えることがありますが、異常ではありません。
- 使用中に液晶画面のまわりが熱くなりますが、故障ではありません。

お手入れ

- 液晶パネルに指紋やゴミが付いて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。液晶クリーニングキットを使うときは、クリーニングリキッドを直接液晶パネルにかけず、必ずクリーニングペーパーに染み込ませて使ってください。

◆本機表面の取り扱いについて

- 汚れのひどいときは、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。
- 本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下は避けてください。
  - シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け・殺虫剤のような化学薬品類
  - 上記が手についたまま本機を扱うこと
  - ゴムやビニール製品との長時間の接触

◆レンズのお手入れと保管について

- レンズ面に指紋などが付いたときや、高温多湿の場所や海岸など塩の影響を受ける環境で使ったときは、必ず柔らかい布などでレンズの表面をきれいに拭いてください。
- 風通しの良い、ゴミやほこりの少ない場所に保管してください。
- カビの発生を防ぐために、上記のお手入れは定期的に行ってください。また本機を良好な状態で長期にわたって使っていただくためにも、月に1回程度、本機の電源を入れて操作することをおすすめします。

◆内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切と関係なく保持するために、充電式ボタン電池を内蔵しています。充電式ボタン電池は本機を使っている限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し、**3ヶ月**近くまったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使ってください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使えます。

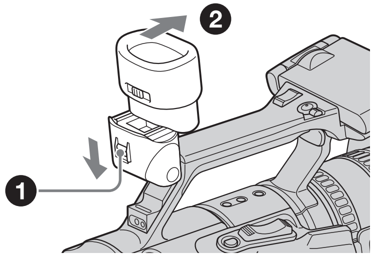
充電方法

本機を別売りのACアダプター /チャージャーを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源スイッチを「切（充電）」にして24時間以上放置する。

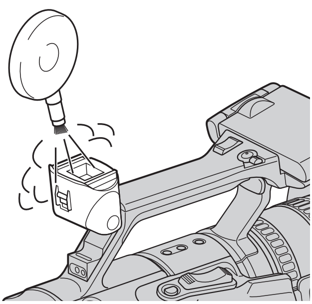
◆ファインダーのお手入れについて

1 接眼部をはずす。

❶ ビューファインダー取りはずしスイッチを下にずらしたまま、❷ 接眼部をずらして外す。



2 接眼部の内側、ファインダー内部のゴミを、カメラ用のブロワーブラシなどで取り除く。



主な仕様

◆システム

録画方式（HDV）	回転2ヘッドヘリカルスキャン
録画方式（DV）	回転2ヘッドヘリカルスキャン
録音方式（HDV）	回転ヘッド MPEG-1 Audio Layer2 16ビット48kHz（ステレオ） 転送レート 384kbps
録音方式（DV）	回転ヘッド 12ビット32kHz （ステレオ1、ステレオ2） 16ビット48kHz（ステレオ）
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式、1080/60i方式
使用可能カセット	Mini DV マークのついたミニDVカセット
テープ速度（HDV）	約18.81mm/秒
テープ速度（DV）	SP：約18.81mm/秒 LP：約12.56mm/秒
録画・再生時間（HDV）	60分（DVM60使用時）
録画・再生時間（DV）	SP：60分（DVM60使用時） LP：90分（DVM60使用時）
早送り、巻き戻し時間	約2分40秒（DVM60使用時）
ファインダー	電子ファインダー：カラー
撮像素子	6mm（1/3型）3CCD固体撮像素子 総画素数：約112万画素 有効画素数：約107万画素
ズームレンズ	カール ツァイス　バリオゾナー T* 12倍（光学） f=4.5～54mm 35mmカメラ換算では 32.5～390mm (4:3では40～480) F1.6～2.8 フィルター径72mm
色温度切り換え	[オート]、 [ワンプッシュ A、B]、 [屋内]（3 200K）、 [屋外]（5 800K）
最低被写体照度	6lx（ルクス）（F1.6）

◆入・出力端子

映像・音声端子	入力/出力自動切り換え 映像：1Vp-p、75Ω不平衡、

	同期負 音声：327mV（47kΩ負荷時）、入力インピーダンス47kΩ以上、出力インピーダンス2.2kΩ以下
S1 映像端子	入力/出力自動切り換え Y出力：1Vp-p、75Ω不平衡、同期負 C出力：0.286Vp-p、75Ω不平衡
コンポーネントビデオ端子	
	D1/D3映像：コンポーネントビデオ端子 Y：1Vp-p、75Ω不平衡 PB/PR、CB/CR：±350mVp-p
ヘッドホン端子	ステレオミニジャック（Ø3.5）
LANC端子	ステレオミニミニジャック（Ø2.5）
マイク入力端子	ステレオミニジャック（Ø3.5）
HDV/DV端子	i.LINK（IEEE1394、4ピンコネクター S400）

◆液晶画面

画面サイズ	8.8cm（3.5型）
総ドット数	250 000ドット 横1 120×縦224

◆電源部、その他

電源電圧	バッテリー端子入力7.2V DC端子入力8.4V
消費電力（バッテリー使用時）	
	ファインダー使用時、明るさ標準： HDV記録時 7.4W DV記録時 6.9W 液晶画面使用時、明るさ標準： HDV記録時 8.0W DV記録時 7.5W
動作温度	0℃～+40℃
保存温度	−20℃～+60℃
外形寸法	151×181×365mm （幅×高さ×奥行き）（最大突起部を除く）
本体質量	約 2.0kg（レンズキャップ付きフード含む）
撮影時総質量	約2.3kg (バッテリー NP-F970、テープ（DVM60）、レンズキャップ付きフード含む)
付属品	10ページをご覧ください。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

◆保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入と記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。

このデジタルHDビデオカメラレコーダーは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスとその費用については、ご容赦ください。

◆アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンター（裏表紙）にお問い合わせください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

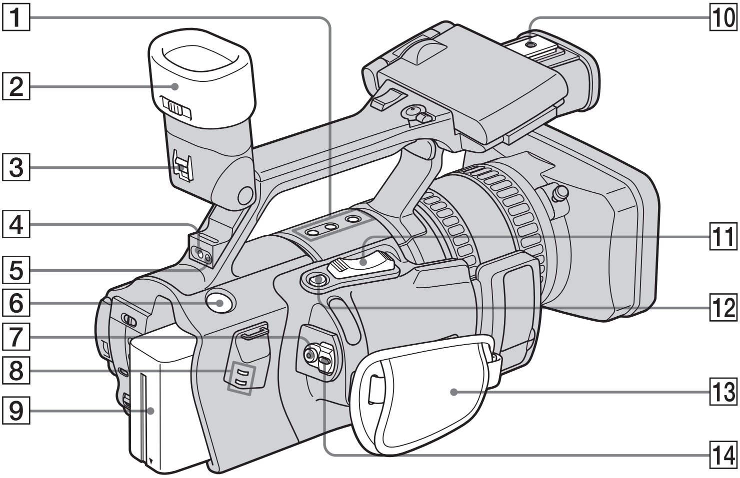
当社はデジタルHDビデオカメラレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

各部のなまえ

本体



1 ショットトランジション操作部（36ページ）

2 アイカップ（17ページ）

3 ビューファインダー取りはずしスイッチ（98ページ）

4 後部リモコン受光部

5 後部録画ランプ（20ページ）

6 バッテリー取りはずしボタン（12ページ）

7 録画スタート/ストップボタン（20ページ）

8 i.LINKランプ（70、73ページ）
i.LINK信号を扱う場合に点灯します。

9 バッテリーパック（11ページ）

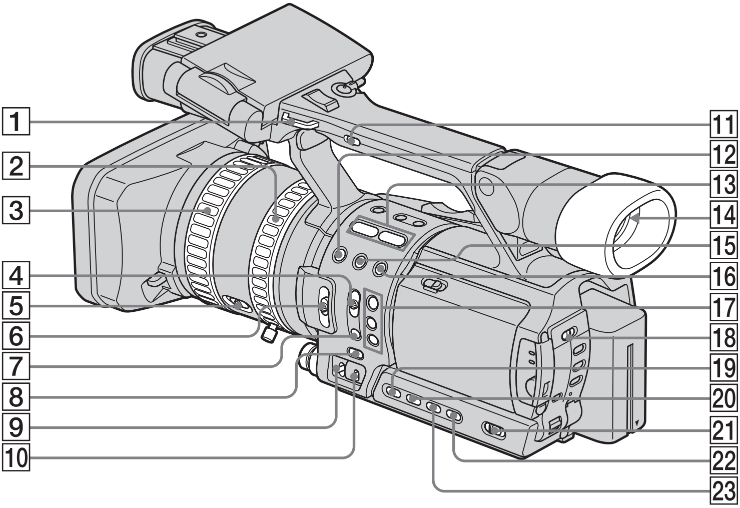
10 シューアダプター取り付け部（104ページ）

11 ズームレバー（22ページ）

12 拡大フォーカスボタン（31ページ）

13 グリップベルト（3ページ）

14 電源スイッチ（15ページ）



1 ショルダーストラップ取り付け部

2 ズームリング（23ページ）

3 フォーカスリング（31ページ）

4 フォーカススイッチ（自動/手動/無限）（31ページ）

5 ズームスイッチ（22ページ）

6 ＮＤフィルタースイッチ（1/2/切）（29ページ）

7 押 自動ボタン（31ページ）

8 （ワンプッシュ）ホワイトバランスボタン（25ページ）

9 ゲインスイッチ（H/M/L）（28ページ）

10 ホワイトバランス切換スイッチ（A/B/プリセット）（26ページ）

11 ハンドルズーム切換スイッチ（H/L/切）（22ページ）

12 レックレビューボタン（40ページ）

13 フォーマットランプ（20ページ）

14 ファインダー（16ページ）

15 逆光補正ボタン*（24ページ）

16 スポットライトボタン（25ページ）

17 ユーザー設定ボタン*（1/2/3）（66ページ）

18 ゼブラ/ピーキングスイッチ（30、32ページ）

19 アイリスボタン（27ページ）

20 ゲインボタン*（28ページ）

21 オートロックスイッチ（25、27、28ページ）

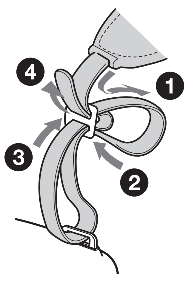
22 ホワイトバランスボタン（25ページ）

23 シャッタースピードボタン（28ページ）

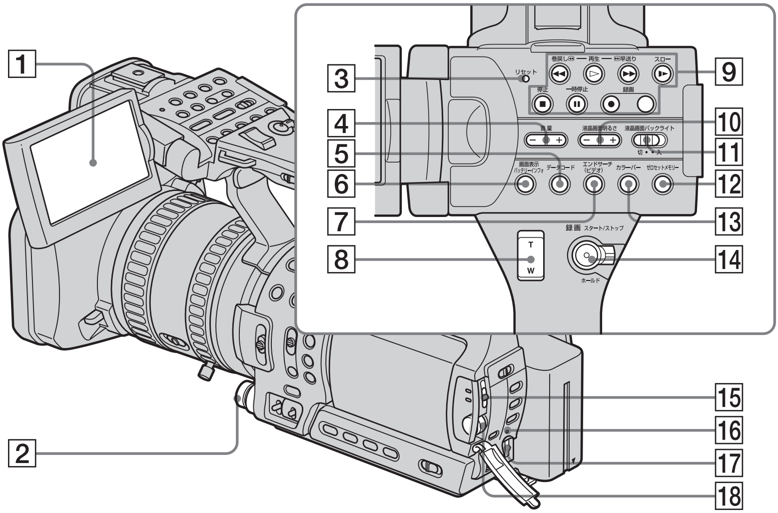
* ユーザー設定ボタン2、逆光補正ボタン、ゲインボタンに凸点（突起）がついています。操作の目印としてお使いください。

◆ショルダーストラップ（別売り）を取り付けるには

ショルダーストラップ取り付け部に図のように取り付けてください。



次のページへつづく➡



1 液晶画面（3、16ページ）

2 アイリスダイヤル（27ページ）

3 リセットボタン

リセットボタンを押すと、日時を含めすべての設定が解除されます。ただし、パーソナルメニューやピクチャープロファイルで設定した内容は解除されません。

4 音量－/＋ボタン*（41ページ）

5 データコードボタン（43ページ）

6 画面表示/バッテリーインフォボタン（12ページ）

7 エンドサーチ（ビデオ）ボタン（43ページ）

8 ハンドルズームレバー（22ページ）

9 ビデオ操作ボタン（巻戻し・再生*・早送り・一時停止・停止・スロー・録画）（41ページ）

10 液晶画面明るさ－/＋ボタン（16ページ）

11 液晶画面バックライトスイッチ（16ページ）

12 ゼロセットメモリーボタン（48ページ）

13 カラーバーボタン（21ページ）

14 録画スタート/ストップボタン・ホールドレバー（21ページ）

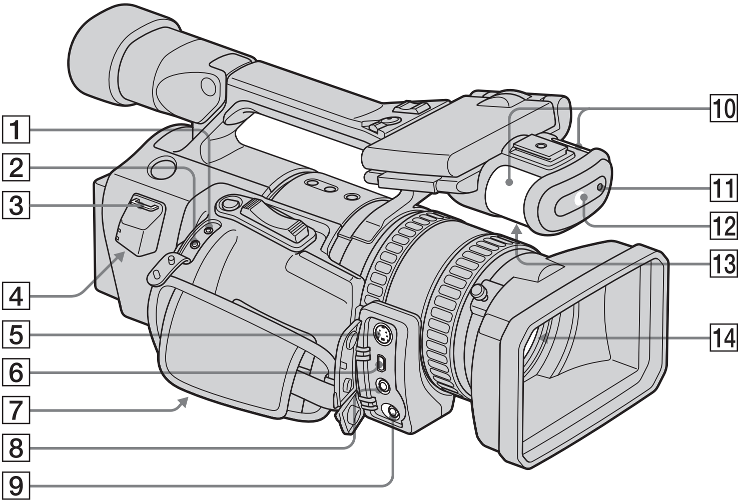
15 音声選択スイッチ（35ページ）

16 充電ランプ（14ページ）

17 DC IN端子（14ページ）

18 オーディオレベルダイヤル（35ページ）

* 音量＋ボタン、再生ボタンに凸点（突起）がついています。操作の目印としてお使いください。



1 LANC端子（青色）
LANC端子は、ビデオ機器と周辺機器をつなぎ、テープ走行などをコントロールできるようにした端子です。

2 （ヘッドホン）端子
ヘッドホンを使うときはステレオミニジャックのものを使ってください。ヘッドホンを使うとスピーカーから音は出ません。

3 ショルダーストラップ取り付け部（101ページ）

4 HDV/DV端子（45、67、68、71、72、74、79ページ）

5 S1映像端子（45、46、69、72、79ページ）

6 コンポーネントビデオ端子（45、46ページ）

7 三脚用ネジ穴
三脚を使うときは、ネジの長さが5.5mm以下のものを使ってください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷付けることがあります。

8 映像/音声端子（45、46、69、72、76、79ページ）

9 マイク/ライン端子（赤色）（76ページ）
マイク（プラグインパワー）/ライン端子はプラグインパワー方式の外部マイク用電源端子とマイク入力端子が兼用になった端子です。
外部マイクやオーディオ機器を接続できます。
外部マイクを接続すると外部マイクが内蔵マイクより優先されます。

10 内蔵ステレオマイク（76ページ）
外部マイクをつなぐと、外部マイクの音声が優先されます。

11 前部録画ランプ（20ページ）

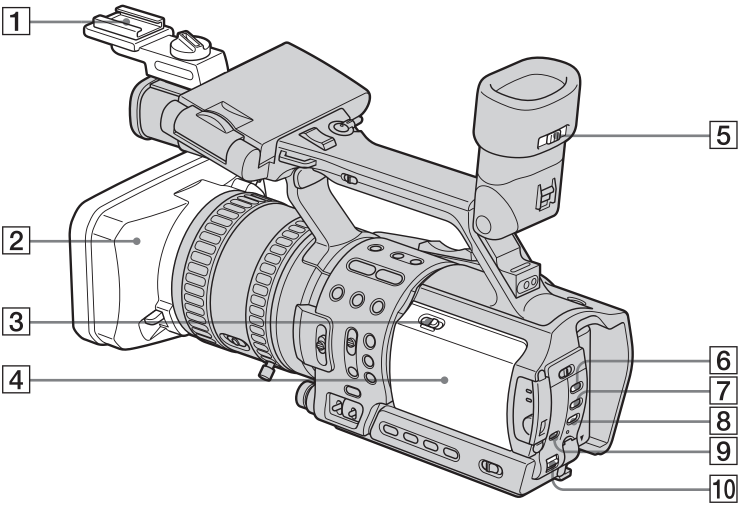
12 前部リモコン受光部

13 スピーカー

14 レンズ（カール ツァイスレンズ搭載）
本機はカール ツァイスレンズを搭載し、繊細な映像表現を可能にしました。本機用に生産されたレンズは、ドイツ　カール ツァイスとソニーで共同開発した、MTF測定システムを用いてその品質が管理され、カール ツァイスレンズとしての品質を維持しています。
さらに本機はT*コーティングを採用しており、不要な反射を抑え、忠実な色再現性を実現しております。
MTF＝Modulation Transfer Functionの略。被写体のある部分の光を、画像の対応する位置にどれだけ集められるかを表す数値。

各部のなまえ・索引

次のページへつづく➡



1 シューアダプター
アクセサリーを取り付けるときは、押しながら奥まで差し込み、取り付けネジを確実に締め付けてください。アクセサリーを取り外すときは、取り付けネジをゆるめ、上から押しながら外してください。
シューアダプターを取り付けるとき、液晶パネルを傷つけないようにご注意ください。

2 レンズキャップ付きフード（20ページ）

3 開く/カセット取出し つまみ（19ページ）

4 カセットカバー

5 視度調整つまみ（16ページ）

6 ピクチャープロファイルボタン（33ページ）

7 メニューボタン（50ページ）

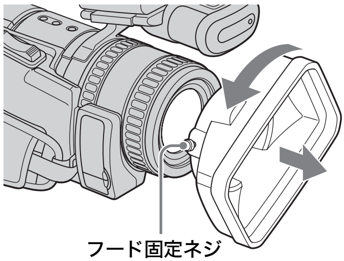
8 P. メニューボタン（62ページ）

9 ステータスチェックボタン（24、44ページ）

10 選択/押 決定ダイヤル（50ページ）

◆レンズキャップ付きフードを取り外すには

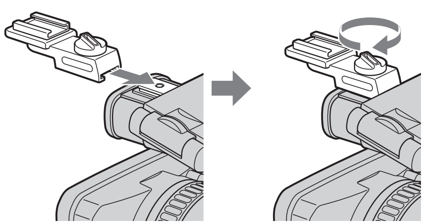
フード固定ネジをゆるめ、矢印の方向に回す。



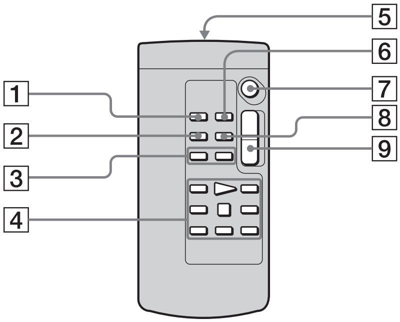
取り付けるには

本体とフードの印を合わせて、上図の矢印と反対方向に回す。フード固定ネジを締める。

◆シューアダプターを取り付けるには



ワイヤレスリモコン



1 画面表示ボタン（43ページ）

2 サーチ選択ボタン（48ページ）

3 ⏮ ⏭ボタン（48ページ）

4 ビデオ操作ボタン（巻戻し・再生・早送り・一時停止・停止・コマ送り・スロー・倍速）（41ページ）

5 リモコン発光部

6 ゼロセットメモリーボタン（48ページ）

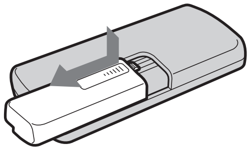
7 録画スタート/ストップボタン（20ページ）

8 データコードボタン（43ページ）

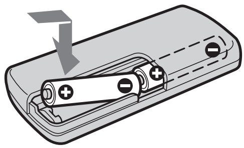
9 ズームボタン（22ページ）

◆電池を入れるには

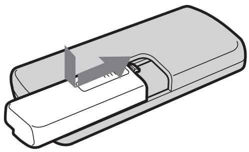
1 電池蓋を、押しながらずらす。



2 +と−を確認して、乾電池を入れる。



3 電池蓋を元に戻す。「カチッ」と音がするまで差し込む。



リモコンについてのご注意

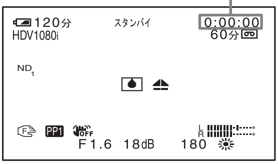
- 本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たらないようにしてください。リモコン操作ができないことがあります。
- コンバージョンレンズ（別売り）を付けていると、リモコン受光部をさまたげ、リモコンが正しく動作しないことがあります。
- 付属のリモコンで本機を操作しているときに、ほかのビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチをVTR2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

ファインダーと液晶画面の表示

撮影中や再生中、下記の表示やアイコンが出ます。( ) 内は参照ページです。

例：電源スイッチが「カメラ」のとき

タイムコード（43）/テープカウンター（43）/自己診断（87）



表示	意味
120分	バッテリー残量（21）
HDV1080i、DV	録画フォーマット（20）
SP、LP	録画モード（22）
スタンバイ/●録画	撮影スタンバイ/撮影中
ND1、ND2、ND OFF	NDフィルター（29）
4:3	4:3テレビモード（39）
♪16b	音声モード（55）＊
60分	テープ残量（21）
	コマ撮り（54）＊
A/V▶DV	A/V→DV出力（59）＊
HDV/DVIN	HDV入力/DV入力（73）
→0←	ゼロセットメモリー（48）
	警告（87）
	手動フォーカス（31）
	逆光補正（24）
	スポットライト（25）
	プリセットホワイトバランス（26）
A、B	ワンプッシュホワイトバランス（25）
クローズ	絞りが閉じている状態（44）
	手ぶれ補正 切 （52、66）

表示	意味
	液晶画面バックライト 切（16）
PP1～PP6	ピクチャープロファイル（33）
	インデックス打ち込み（38）
♪4ch-12b	4CHマイク記録（86）＊

＊ DV規格のみ表示されます。

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

次のページへつづく➡

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順

カスタマー登録のご案内

ソニーではハンディカムをお買い上げの皆様へのサポートをより充実させていくため、お客様に「カスタマー登録」をお勧めしています。
詳しくは付属の「デジタルイメージング カスタマー登録のお勧め」をご覧ください。

■カスタマー登録および登録内容の変更はこちらのホームページから
http://www.sony.co.jp/di-regi/

デジタルイメージング カスタマー登録

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■カスタマー登録に関するお問い合わせは
ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク
電話： 0466-38-1410
受付時間： **月～金曜日　午前10時～午後6時**
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■デジタルハンディカムの最新サポート情報
（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法など）は
こちらのホームページから
http://www.sony.co.jp/cam/support/

■テクニカルインフォメーションセンター
ご使用上での不明な点や技術的なご質問のご相談、および修理受付の窓口です。
製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合は、「テクニカルインフォメーションセンター」までご連絡ください。修理に関するご案内をさせていただきます。
また修理が必要な場合は、お客様のお宅まで指定宅配便にて集荷にうかがいますので、まずお電話ください。

電話： 0564-62-4979
受付時間：月～金曜日　午前9時～午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）
お電話される前にあらかじめ以下の内容をご用意いただきますとより迅速な対応が可能になります。

① **お客様のデジタルイメージングカスタマー ID**
（既にカスタマー登録されたお客様にはカスタマー IDが発行されています）
② **本機の型名HDR-FX1および製造番号**
（保証書などに記載されています）

■ハンディカムホームページ
ハンディカムの活用法やアクセサリー情報、パソコンへの画像取り込み方法を掲載しています。
http://www.sony.co.jp/cam/

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

eco info
この説明書は100%古紙再生紙とVOC (揮発性有機化合物)ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

2178348030